

DA. 記録報道(障害関係)(DVD)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2008-009	B-3	きらっといきる 振動を感じて駆け抜けろ! ~聴覚障害・西田文彦さん~	奈良県に住む聴覚障害者の西田文彦さんは、世界で活躍するプロレーサーを目指している。しかし周囲からは障害者がレースをすることは危険だと言われていた。夢をあきらめきれなかった西田さんは、ある人との出会いが大きききっかけとなり、プロレーサーの夢に向かって進み出す。西田さんの夢に向かっての挑戦を紹介する。	29
●		DA2008-010	B-3	きらっといきる 波に乗り世界へ ~聴覚障害・竹本裕行さん~	竹本裕行さんは徳島聾学校に通う16歳。夢はプロのサーファーになること。ろう者の父親も、かつてはデフサーファーの日本第1位だった。聾学校の寄宿舎に入っているため練習が十分にできなかったり、卒業後の進路のことなど悩みも多い。世界を目指す竹本さんの試行錯誤の日々を追う。(竹本裕行・牧ローニ・ジェフ・ランバート)	29
●		DA2008-013	B-3	夢の扉 NEXTDOOR EPISODE132 聴覚障害者の生活圏を広げる機械を發明した男 齋藤勝	聴覚障害者がいって便利な道具シルウォッチ。シルウォッチは、FAXの着信音や玄関の呼び鈴などの音を、文字と信号に変えて聴覚障害者に知らせてくれる。この機械を開発したのが、齋藤勝さん。齋藤さん自身、聴覚に障害をもつ難聴者。自分が生活で感じた不便を解消するためにつくった機械が、今、さまざまな分野で活用され始めている。(齋藤勝・大櫛エリカ)	25
●		DA2009-007	B-3	課外授業 ようこそ先輩 みんな生きていればいい 東京大学准教授 福島智	福島さん(45歳)は、目が見えず耳も聞こえない全盲ろう者で、東京大学でバリアフリーを研究している。今回は、小学校3年生まで通った母校・神戸市立舞子小学校で6年生に授業をする。子供たちは実際に、見えず聞こえないという状態を疑似体験し、その恐ろしさ、寂しさ、孤独を体感する。そんな子供たちに福島さんは、「それでも生きていればつながれる」と語りかける。	29
●		DA2009-010	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえなくても快適に暮らせる家作り	東京都清瀬市に暮らす島澤さん一家。妻の美保さんは聴覚障害者だ。島澤さん一家は、聴覚障害者が快適に暮らせる家作りに挑戦した。ポイントは3つ。壁を取り払い見通しをよくすること。意識的に向き合える空間をつくること。そして必要に応じて視覚情報機器を使うこと。その結果、家族とすぐコミュニケーションがとれる聴覚障害者にとって暮らしやすい家ができた。	15
●	●	DA2010-001	A-3	カラフル! 千恵のまいにち日つき	としおか千恵ちゃんは小学生の女の子。学校であつたできごとを毎日日記に書いている。友だちのこと、先生のこと、お勉強のこと。学校で友だちとけんかをして、次の日には笑顔で仲直り。ダウン症の女の子の生活の一コマを送る。	15
●	●	DA2010-002	A-3	福祉ネットワーク 受け容(い)れる勇気をもって	奥田哲生さん(41歳)は、車いすで生活しながら自宅を塾を開いている。奥田さんは28歳でギラン・バレー症候群を発症し手足の自由を失った。突然障害者となった自分を受けいれることができず、家に引きこもりがちだったが、笑顔を取り戻すきっかけとなったのは、塾の生徒たちとの交流だった。奥田さんと生徒たちとの交流の日々を追う。	29
●	●	DA2010-003	A-3	きらっといきる “すれ違い”からはじまったけど...	大学3年生の大畑明子さんは、生まれつき耳が聞こえない。大学でスポーツ行動学を勉強している明子さんは、「卒業後は、子どもたちにスポーツを教えたい」と考えている。スポーツクラブでの実習に臨んだ大畑さんの姿を追う。(山本シュウ・玉木幸則)	29
●	●	DA2010-004	A-3	ハートをつなごう NHK障害福祉賞(1)	44回目を迎えたNHK障害福祉賞。今回は、455編の作文が寄せられた。番組では、その中から2名の作品を取り上げ紹介する。1日目は、小山田弘佑さん(28歳)。小山田さんは軽度の知的障害があり、そのために長年いじめを受けていた。また十代で母親が病死するという辛い体験をしたこともあって、20歳を越えたころから自殺未遂を繰り返すようになった。そんな彼が、作文を書くことで自分と向き合い、立ち直ってきた体験を語る。(ソニン・石田衣良)	29
●	●	DA2010-005	A-3	ハートをつなごう NHK障害福祉賞(2)	NHK障害福祉賞を紹介する2日目。三重県の岡田くめ子さんは統合失調症の娘・彩さんとの闘病についてつづつた。彩さんは親のすすめで進学した大学が自分に合わず心を病んでしまった。病気をきっかけに娘の心と向き合ったくめ子さんは、「娘を最高の回復者第1号にしよう」と決意。やがて彩さんは回復し、自分が大好きだった本にかかわる仕事・図書館司書に就くまでになる。(ソニン・石田衣良)	29
●		DA2010-006	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 日本のろう者にとってのギャロデット大学 ~留学経験者は語る~	世界で唯一の聴覚障害者のための大学ギャロデット大学。日本からも数多くの聴覚障害者が留学している。スタジオに2名の留学経験者を迎え、ギャロデットで学んだこと、世界のろう者との交流経験などを伺い、留学を通じて何を学んだのかを見つめ直す。	15
●		DA2010-007	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “ことば”を持たないお年寄りとともに	高齢のろう者の中には学校に通ったことのない人が数多くいる。このような未就学のろう高齢者たちは、介護のための施設に入っても周囲とコミュニケーションがとれず、孤立したり認知症と誤解されてしまうことが多い。ある未就学ろう高齢者への周囲の働きかけを見ていながら、この問題について考える。	15
●		DA2010-010	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 今要約筆記を考える ~字幕付と技術シンポジウム	聴覚障害者にとって大切な情報保障手段の1つ要約筆記。要約筆記で聴覚障害者に正確にわかりやすく伝えるには何が必要なのか。要約筆記について考えるシンポジウムの様子や最新の音声自動認識システムを紹介する。	15
●		DA2010-021	B-3	新春ヒューマンドラマスペシャル 筆談ホステス	銀座でナンバーワンホステスの斉藤里恵さん。彼女は耳が聞こえない。しかしその障害を乗り越えるために始めた筆談が客の心をつかみ癒している。彼女がナンバーワンホステスになるまでの道のりをドラマで再現する。(北川景子・田中好子・福士誠治・手塚里美・戸田菜穂)	93
●		DA2010-027	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 中途失聴者にとっての手話 ~今 求められる学習環境~	中途失聴の人が手話を覚えようとする、まず学習の場のないことで苦労する。自治体などで行っている手話講習会は、ろう者とのコミュニケーションを前提に、聞こえる人を対象にしていることが多いからだ。数少ない中途失聴者を対象とした講習会の模様を通して、その必要性を考える。	15
		DA2010-028	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 無くせ情報バリア	中園秀喜氏の著書「聞こえのバリア解消への提言」を通して、聴覚障害者のバリアについて考える。特に病院や公共機関、交通機関など、情報保障の必要性の高い場においても十分な保障の行われていない現状について、その解決方法も含め、中園氏本人からお話を頂く。(中園秀喜)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2010-040	B-3	石橋勝のボランティア21 手話狂言で伝えるメッセージ ～西川慧子さんの挑戦～	日本が誇る古典芸能のひとつ「狂言」。 主として科(しぐさ)と白(せりふ)によって表現されるこの芸能に挑戦を 続けているのが西川慧子さんです。 実は西川さんは聴覚に障害があります。彼女たちが演じているのは、 手話で台詞を語る手話狂言なのです。「聞こえないことは個性」そう語 る西川さん。 35年前、地元で初となるボランティアサークルを立ち上げ、手話の普 及に尽力。今も彼女を支える人々とともに、障害がある人たちのために 幅広い活動を続けています。石橋勝・新井晴み・西川慧子(テレビ大 阪HPより)	25
●	●	DA2010-041	A-3	ヒューマンドキュメンタリー “私の家族”	小学生と中学生の3人の子どもを育てるある一家。家族の間に血のつ ながりはない。子どもに恵まれなかった夫婦は15年前、NPOを通じて 生後数か月の赤ちゃんと特別養子縁組を行い、さらに2人を迎え育てて きた。子どもたちには産みの親が別にいることを隠さず伝えてきたが、 最近12歳の長女が「産みの母に会いたい」と言い始めた。親子とは？ 家族のきずなとは何なのか？子どもが成長の節目を迎えた家族の姿を 通して見つめる。	43
●	●	DA2010-042	A-3	福祉ネットワーク うちの子どもは世界一 ぼくと音楽のた のしい関係	小柳拓人さん(16歳)は自閉症で落ち着きがなく集団行動や、家族との コミュニケーションがうまくいかなかった。5歳で音楽教室に通わせると 通常、子どもが苦手とする「同じことを反復練習する」などといったことが ビタリとはまりみるみる上達。音楽を通して場面に応じた行動をすること を次第に身につけていく。拓人さんの日常を紹介しながら、同世代の若 者たちや自閉症や発達障害について正しく理解し、一人一人の個性を 大切に生きているということを考える。(木下航志・町永俊雄)	29
●	●	DA2011-001	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 地域からの提言(1) 地域みんなで子どもを育てる	新潟県上越市では10年以上前から市営の保育園「ファミリーヘルプ 保育園」を開設。「土日だけ預かって欲しい」、「急な仕事が入った時だ け預かって欲しい」といった、従来の行政が対応しきれなかった市民の さまざまなニーズに応えている。しかも24時間の受け入れが可能なの で、緊急時など母子がいつでも駆けこめるセーフティネットとしても機 能してきた。また、住民との連携にも注力していて、子育てする母親たち が作るNPO“マミーズ・ネット”と情報交換を行い、ベビーベッドが充実し た施設を作ったり、父親や企業に子育てを理解してもらうための企業研 修を支援したりしている。 どうしてこのようなユニークで効果的な対策が実現できるのか、財政 学者の沼尾波子さんが検証する。(NHKHPより)	29
●	●	DA2011-002	A-3	ハートをつなごう 「若者のこころの病」(1)	統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると 言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレ ンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つ めます。 前回2009年12月8日放送の『ハートをつなごう NHK障害福祉賞 (2)』(DA2010-005)に出演し、放送後大反響だった岡田彩さんが再 出演されます。 第1回は彩さんの軌跡を振り返りながら、若者がこころの病を発症する 背景に何があるのか？そしてどうサポートしていけばいいのか？当事 者の悩みや思いをじっくりと語り合います。(ソニン・石田衣良)(NHK HP参照)	29
●	●	DA2011-003	A-3	ハートをつなごう 「若者のこころの病」(2)	統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると 言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレ ンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つ めます。 第2回では、第1回に続き、岡田彩さんと中心に、孤立しがちな若者た ちが“つながる”ことの大切さとその意味について語り合います。彩さん が参加する“ありのままクラブ”には同様の障害を持つ若者たちが集い ます。“ありのままクラブ”に通う二人の“うつ病”男性がスタジオで本音 トークを繰り広げます。(ソニン・石田衣良)(NHKHP参照)	29
●	●	DA2011-004	A-3	ETV特集 想い出の街が蘇(よみがえ)る ～写真家・井上孝治の世界～	昭和30年頃の街と人々の暮らしを撮った井上孝治さん(大正8年～ 平成5年)。生涯、カメラ店を経営する傍ら写真を撮り続けたアマチュア カメラマンで、18年前に74歳で亡くなるまでに3万枚の写真を残しまし た。 井上さんは、幼いときの事故が原因で耳が不自由でした。話すことは できませんでしたが、人なつこい性格で、特に子どもたちと仲良くなり 写真を撮っていたといいます。音のない世界で、時代と風景を見つめ続 けていました。その写真には、めまぐるしく移り変わる時の中で、わた したちが置き忘れてきたものが写し出されています。 写真作品と、残された日記、そして家族・関係者の証言などから、井上 孝治さんの生涯をたどります。	59
	●	DA2011-009	B-3	福祉ネットワーク シリーズ 支援が必要な子どもたちへの教育 第1回“インクルーシブ”な教育	2006年に国連で採択された障害者権利条約。この条約の批准に向 けて、国内でさまざまな取り組みが始まっている。インクルーシブな教育 とは、障害者が自分が住む地域で、健常者と共に教育を受けること。長 野県中野市の取り組みを紹介しながら、障害を持つ子供たちへの教育 について考える。	29
●		DA2011-010	B-3	福祉ネットワーク “盲ろう者” 生きる意欲につながる支援	2009年、東京に全国初の盲ろう者支援センターが開設した。全国に 2万人といわれる盲ろう者に対して触手話などのコミュニケーション訓練 をはじめ、調理などの生活訓練もを行い、盲ろう者の自立や社会参加を 広げることが期待されている。孤立して暮らす盲ろう者の実態を調査 し、適切な支援につなげていく試みを進めるセンターの活動を紹介す る。(町永俊雄・福島智)	29
●		DA2011-011	B-3	福祉ネットワーク 公開すこやか長寿 太極拳に学ぶ・柔らかな足腰の動き	栃木県那珂川町から、高齢者と学ぶ健康体操教室を送る。テーマは 太極拳。深い呼吸とゆったりした動きの太極拳は、高齢者にもできる健 康づくりだ。「調心」「調息」「調身」をキーワードに、すぐできる簡単プ ログラムを紹介する。講師は日本健康太極拳協会の皆さん。	29

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2011-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 情報保障の可能性を広げよう ～字幕付与技術シンポジウム2009から～	京都大学学術情報メディアセンターが主催して開催された「聴覚障害者のための字幕付与技術」シンポジウム2009。 注目を集めた技術のひとつが、携帯ゲーム機や携帯電話に字幕を提供する技術。また、会場では、学術情報メディアセンターの河原達也教授たちが開発している自動音声認識システムJuliusを使ってリアルタイムで字幕を制作する実演も行われた。 このふたつの技術を中心に、字幕付与技術の最新情報を伝える。(河原達也)	15
		DA2011-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 今医療手話を考える	全日本ろうあ連盟は今年「医療の手話シリーズ・第3巻 保健指導編」を出版した。連盟ではこれまで医療関係者も交えた制作委員会を作り病氣や治療法に関係した手話表現の制作に当たってきたが、これですうした手話がほぼ完成したことになる。 医療関係者、聞こえない人は「医療手話」とどう向き合ったらよいのか考える。(海藤俊行・石橋大吾・長谷川芳弘)	15
		DA2011-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 今震災体験を語る ～永江真樹さん～	神戸市に住む永江真樹さんは15年前の阪神大震災を経験、その体験記をこのほど出版した。 「阪神大震災・聴覚障害を持つ主婦の体験」は永江さんが一家四人で体験した震災と避難生活をつづったものである。被災時に聴覚障害者がどんな体験に直面したか、改めて検証する。(永江真樹)	15
		DA2011-020	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 意外に多い！？ ろう者と聴者 日本語のズレ	「手話と音声言語」というコミュニケーション手段の違いから意識疎通に困難を生じる健聴者と聴覚障害者だが、微妙なニュアンスの違いからも、さまざまなトラブル、誤解が発生する。 そうした用例を集めた本、「ろう者のトリセツ聴者のトリセツ～ろう者と聴者の言葉のズレ～」が出版された。数々の日本語の解釈のズレを実例に、互いをよく理解するためにどうしたら良いのか考える。	15
		DA2011-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる人とのかけ橋に	2010年3月、新潟市で「しゅわる映画祭」が開かれた。聞こえない人も聞こえる人もともに同じ映画を楽しんでもらい、手話に関心を持ち手話を使う(しゅわる)人を増やすことを目的とした映画祭だ。 映画祭を企画したのは、手話の普及をめざして活動する団体・手話レクチャー「ハンズ」。代表の小池卓さんが映画祭の運営委員長を務める。「聞こえない人と聞こえる人のかけ橋になりたい」と願う小池さんに、その思いを伺う。(小池卓・佐藤紘一)	15
		DA2011-026	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 必要な人に必要なサービスを ～障がい者制度改革推進会議～	総理大臣を本部長として設置された「障がい者制度改革推進本部」の下部組織、「障がい者制度改革推進会議」が、2010年1月からスタートした。障害のある当事者や有識者が参加して、障害者基本法の改正や、あらたな総合福祉法(仮称)の制定などに向けて議論を進めている。会議の構成員の1人、全聴覚障害者事務理事の新谷友良さんに、障がい者制度改革推進会議における議論について解説していただく。(新谷友良)	15
		DA2011-027	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”生きる意欲につながる支援	2009年5月、盲ろう者の自立や社会参加の支援を目的に、東京都盲ろう者支援センターが開設された。東京都の補助を受けてNPO法人東京盲ろう者友の会が運営するもので、全国初めての取り組みだ。センターでは、料理、スピーチ、ウォーキングなどを通して、家に閉じこもりがちな人たちの社会参加を促進する事業を実施している。開設1年の東京都盲ろう者支援センターの取り組みを通して、盲ろう者を支援するサービスのありかたを考える。(川崎美知夫・前田晃秀)	15
		DA2011-028	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 電話リレーサービス普及のために	電話リレーサービスは、聞こえない人と聞こえる人がリアルタイムで会話することを可能にするサービス。聞こえない人は、パソコン上で文字を打ったり、テレビ電話で手話で話す。それを見たオペレーターが、聞こえる人に電話をして内容を音声で伝える。逆に聞こえる人の音声は、オペレーターが文字や手話で伝える。 電話リレーサービスの便利さを紹介しながら、普及させるための道筋を考える。(小川光彦)	15
		DA2011-029	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 発達障害をあわせ持つ子への支援	ろう学校に通う子ども「発達障害」が目立ちはじめた。補聴器が進歩したり手話が積極的に活用されても、「ことばの学習に困難がある」「集中が続かない」「人の気持ちを推測できない」といった特性を持つ子どもたちがいることが、わかってきたのだ。 そんな中、東京学芸大学准教授の濱田豊彦さんが実施する「学習支援ダンボ」の取り組みが注目されている。発達障害をあわせ持つ子どもの教育支援の研究と実践についてレポートする。(濱田豊彦)	15
		DA2011-030	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 情報・コミュニケーションを保障する制度改革を	障害者にかかわる制度の抜本的な改革をめざして議論が続く、内閣府の障がい者制度改革推進会議。重要なテーマのひとつが「情報・コミュニケーション保障」だ。日本が批准をめざす障害者権利条約をふまえた新しい法制度を、障害者自身が提案、実現しようとしている。 情報・コミュニケーション保障を実現する制度改革についての、全日本ろうあ連盟の考え方を聞く。(小中栄一)	15
		DA2011-031	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 日本ろう者劇団 30年の軌跡	ろう者演劇をけん引し続けてきた「日本ろう者劇団」は、今年、誕生して30周年を迎えた。 1980年4月、演劇の好きなろう者が集まり「東京ろう演劇サークル」を設立。その後、トット基金の付帯劇団となり、日本ろう者劇団と改称し、発展してきた。 日本ろう者劇団は、どのような足跡を残してきたのか、これから何を始めようとしているのか、過去の公演の映像を交えながら、劇団の米内山明宏さんと井崎哲也さんに聞く。(米内山明宏・井崎哲也)	15
		DA2011-032	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ソーシャルワークを普及させよう	聴覚障害のある人の生活の質を高めるために注目され始めたのが、専門家によるソーシャルワークだ。本人が抱える問題を整理し、使える制度を利用し周囲にも働きかけて、本人が職場や地域で力を発揮しやすいようにする。東京聴覚障害者自立支援センターの相談支援員の矢野耕二さんは、聴覚障害者が働く職場に出かけて障害者が働きやすい職場を作ったり、ろう学校に出かけて生徒の相談に乗ったりしている。 ソーシャルワークの実際を紹介しながら、ソーシャルワークの重要性や普及への道筋、課題について聞く。(矢野耕二)	15
		DA2011-033	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ピアノが好き！～調樹里杏さん～	聞こえなくても、ピアノを弾くのが楽しくてしかたがない！そう語るのは、神奈川県に住む調樹里杏(しらべ じゅりあ)さん。仕事や子育てと格闘しながら、毎日、自宅のピアノに向かう。 調さんがピアノを弾く楽しみは、響き。聞く人に感動してもらえる演奏をしたいと、自分では確認しづらいことをピアノの先生に教えてもらいながら、練習に取り組んでいる。大好きなピアノに一生懸命に向き合う調樹里杏さんを追う。(調樹里杏)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2011-041	B-3	カンブリア宮殿 障害者に働く喜びを 日本理化学工業会長 大山泰弘	不況にあえぐ中小企業にあって、社員の幸せを考え続けている会社がある。神奈川県川崎市にある「日本理化学工業」だ。この会社の従業員は74人のうち54人が知的障害者だ。しかも重度の人が半数以上を占めている。障害者の雇用を積極的に進める企業の中でも、草分け的な会社だ。 日本理化学工業の50年の歩みと障害者雇用の現実と問題点をあぶりだして行く。(村上龍・小池栄子)	44
●		DA2011-042	B-3	目撃者f 絵里せんせいとスーパーダンスキッズ	最近、子どもたちの間でもヒップホップやストリート系ダンスが大人気で、キッズダンスの全国大会開催など、キッズダンス界はこれまでにない盛り上がりを見せている。 福岡市南区にも全国で注目を集めるダンスチームがある。小学生ダンサー日本一を決める大会で前年全国3位。今回は優勝を目指すチーム「絵里ダンス」だ。子どもたちを指導するのは、西畑絵里さん。西畑さんは生まれながらにして重度の難聴という障害をもちながら、高校、大学時代に何度も日本一に輝いた実績がある。その努力は並大抵のものではない。 「ダンスの前にまず礼儀」という西畑さんの指導はとても厳しい。「できるかできないかではなく、やるかやらないかよ！」と詰った西畑さんに子どもたちは泣きながら必死の思いで付いていく。 さて、今大会の結果は…。(西畑絵里)【字幕制作:福岡県聴覚障害者センター】	26
●	●	DA2012-001	A-3	ハートをつなごう きょうだい～障害のある人の兄弟姉妹～ (1)抱えてきた“生きづらさ”	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」… 障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。 「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないかと」一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかとされています。 (1)では、「きょうだい」がどんなことに苦しんできたのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。(石田 衣良・ソニン・桜井洋子) (NHKHP参照)	29
●	●	DA2012-002	A-3	ハートをつなごう きょうだい～障害のある人の兄弟姉妹～ (2)“自分を生きる”ために	「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」… 障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。 「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないかと」一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかとされています。 (2)では、「きょうだい」が、成長の過程で抱えるさまざまな課題を、どうやって乗り越えていけばいいのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。(石田 衣良・ソニン・桜井洋子) (NHKHP参照)	29
●	●	DA2012-003	A-3	ハートをつなごう NHK障害福祉賞(1) 私の家族	「NHK障害福祉賞」は、障害者自身の体験や、障害児・者の教育や福祉の分野での実践記録などに贈られる賞。 この「NHK障害福祉賞」最優秀賞を受賞した徳澤麻希さん。夫の勝也さんが交通事故で車いすの生活になり、麻希さんは、勝也さんの介助とふたりの子どもの子育てに奮闘。夫の勝也さんは障害を抱えながら、子育てにどう関わったらいいのか悩んできた。困難に遭いながらも前向きに生きようとする一家の姿をご紹介します。作品にこめられた思いを伺う。	29
●		DA2012-007	B-3	福祉ネットワーク 東日本大震災 “盲ろう者”になりがおきたか	多くの人に甚大な被害をもたらした東日本大震災。中でも視覚と聴覚の両方に障害を持つ「盲ろう者」は、震災直後の停電や情報網の混乱の中、情報を得る一切の手段を失った。さらに震災は、日ごろ盲ろう者を支えていた支援者の命も奪った。東日本大震災で盲ろう者はどんな事態に直面したのか、そしてどんな支援が必要なのか考える。(門川紳一郎)	29
	●	DA2012-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 島の手作りネットワーク ～隠岐に暮らす聞こえる人とろう者たち～	池田文隆さん、宮子さんは島根県隠岐の島に暮らす健聴者とうろうの夫婦。島に15人ほどいるろう者の大半は1人暮らしの高齢者である。島では公的な手話通訳派遣制度が事実上ほとんど機能していない。松江市に派遣を依頼すると1日1便だけのフェリーで片道3時間かけて通訳が来ることになる。日帰りは困難なため、依頼は島の手話サークル代表を務める文隆さんに舞い込む。池田さんの取り組みを紹介する。(池田文隆)	15
	●	DA2012-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”を知っていますか？	渡井真奈さんは、夫が盲ろう者で、5年前から、小学校や幼稚園で、盲ろう者について知ってもらうための授業を企画・運営している。授業には、実際に盲ろう者を講師に招き、点字や手話についてのクイズ、子どもたちに実際に盲ろう者の手引きをしてもらう。「盲ろう者についてもっと知って欲しい」と活動する真奈さんの思いを紹介する。	15
	●	DA2012-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年4月3日放送)	東日本大震災関連情報。震災から3週間目の様子を伝える。聴覚障害者支援中央本部の取り組みについてと、岩手県ろうあ協会会長高橋幸子さんの報告。番組後半では、兵庫県立聴覚障害者情報センターの相談員・甲斐更紗さんを迎え、災害時の心理支援について伺う。(甲斐更紗)	15
	●	DA2012-023	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年4月10日放送)	東日本大震災から1か月目の様子を伝える。全難聴対策本部の高岡正さんから、難聴者の被災状況・必要な支援について伺う。後半は精神保健福祉士の高山享太さんを迎え、被災した子どもたちをどう受け止め支援していくのかを伺う。(高岡正・高山享太)	15
	●	DA2012-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生 前編 ～藤田孝子さん～	1964年に制作されたNHKのドキュメンタリー「歳月」は、藤田威さん・孝子さんの聞こえない夫婦が、たくましく生きる姿を描いた作品だ。ろう者への差別がまだ厳しかった時代。さまざまな苦労に負けず前向きに生きた孝子さんの「あきらめない人生」を伺う。(藤田孝子・橋爪由利)	15
	●	DA2012-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生 後編 ～藤田孝子さん～	藤田孝子さんにお話を伺う後編。夫の威さんは島根県のろうあ連盟の中心的存在として活躍した。夫の生前からろうあ運動にかかわった孝子さんだが、当時は女性が前面に出るのは珍しいことだった。夫の死後、島根県のろうあ連盟の会長も務めた孝子さんに、女性ならではの取り組みについて伺う。(藤田孝子・橋爪由利)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2012-038	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 災害時の緊急情報をどう伝えるか	東日本大震災では、聴覚障害者の防災や被災者支援において、さまざまな課題が浮き彫りになった。特に情報配信は重要な課題である。災害発生時に確実に情報が届くようにするには、どんなシステムを用意しておくことが必要なのか考える。(小川光彦)	15
		DA2012-039	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 災害と聴覚障害者情報提供施設	東日本大震災で、情報提供施設は地元の聴覚障害者団体と協力し、安否確認や被災者支援活動を行った。災害時に重要な役割を担う情報提供施設のない地域では、一日も早い施設設置を望む声が高くなっている。災害時の情報提供施設の役割について伝える。(保住進)	15
	●	DA2012-040	B-3	東海北陸ヒューマンドキュメンタリー 聴こえない僕が父になる	ろう者の森本拓磨さんは学生時代にひとめぼれした女性と結婚した。そして同時に5歳の翔太郎君の父親になった。耳の聞こえない森本さんが言葉の壁や血のつながりを超え、翔太郎君の父親になろうとする姿を追う。(森本拓磨)	29
	●	DA2012-041	B-3	なんくるないさあ 耳の日特番 ～今井絵理子が息子と歩んだ6年～	かつてSPEEDのメンバーとして、国民的人気を得た歌手・今井絵理子さん。彼女の一人息子、礼夢くんは耳が聞こえない。「聞こえないことは息子の個性」と言い切る絵理子さんは、礼夢くんを連れて全国のろう学校や施設を回り、コンサートを行っている。自ら手話を学び、息子とコミュニケーションし、そして歌い続ける絵理子さんの姿を追った。(今井絵理子・今井礼夢)	45
●		DA2012-043	B-3	NNNDドキュメント'11 3・11大震災 シリーズ16 手話で伝えた被災地 ～心の壁を越えて～	今村彩子さんはろう者の映像作家。東日本大震災の直後から現地入りし、被災したろう者たちの姿を撮り続けてきた。以前は手話のできない聴者とのコミュニケーションにあまり積極的ではなかったという今村さん。しかしあるろう者との出会いで、自分の心の壁に気づく。被災したろう者の復興も、それぞれが心の壁を超えたとき、何かが見えてくるはず。それを信じて、ひたむきに作品づくりに向き合う今村さんの姿を追う。(今村彩子・太田辰郎)	25
●		DA2012-045	A-3	架け橋 第1弾 ～東日本大震災 宮城の被災 ろう者は今～ 第2弾 ～東日本大震災 一ヵ月後の被災 ろう者～ 第3弾 ～東日本大震災 地域の絆～	甚大な被害をもたらした東日本大震災。その時、聞こえない仲間たちは、建物の倒壊した町で、避難所で、何を思いどう過ごしていたのか。ろう者である今村彩子監督が見た被災地とは、そして聞こえない仲間たちとは…。渾身のドキュメンタリー作品。(今村彩子)	75
●	●	DA2012-046	A-3	福祉ネットワーク この人と福祉を語ろう デザインで描く生きる希望 ～建築家 伊東豊雄さん～	各界の著名人に、その人なりの福祉論を語ってもらう「この人と福祉を語ろう」。今回のゲストは、世界的な建築家の伊東豊雄さん(70歳)。東日本大震災によって暮らしや地域社会が奪われた被災者たち。伊東さんは震災直後から被災地に入り、「建築の力」でコミュニティーの復興再生を支援するために力を注いできた。多くの喪失を経験した被災者の心と生活の復興再生を、どうデザインのかで支援しようとしているのか、話を伺う。(伊東豊雄)(NHKHHPより)	29
●	●	DA2013-001	A-3	アスリートの魂 私をもっと速くなる 車いすマラソン 土田和歌子	パラリンピック車いすマラソン日本代表、土田和歌子選手。17歳で足の自由を失った後、幾多の苦難においても常に前を向いて走り続け、夏と冬のパラリンピック両方で金メダルを獲得。まだ手にしていないのが、車いすマラソンでの金メダルだ。レース中の事故で大けがを負った北京大会から4年、37歳の肉体は衰えを隠せないが、「最後のチャンス」と臨むロンドンに向けた激闘の日々に密着した。(土田和歌子)	44
●		DA2013-002	A-3	ハートネットTV NHKハート展 叱られたとき	障害がある人が作った詩に著名人が絵をつけるアートのコラボレーション「NHKハート展」。今回は入選者の中から、茨城県に住む遠藤真宏さん(19歳)の作品をとりあげる。真宏さんは知的障害と自閉症がある。小さい時は、自分の感情をコントロールできず、ほとんど人と関わることもできなかった。母親の礼子さんは、幼少から2つのことを心がけて、真宏さんに向き合ってきたという。2つのこととは…?(遠藤真宏・つちだよしはる)(NHKHHP参照)	29
●		DA2013-008	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 防災を考える～全国難聴者・中途失聴者 福祉大会inあおもり～	青森市で開催された「第17回全国難聴者・中途失聴者福祉大会」では、さまざまな分科会の中でも、防災について考える分科会への出席者が多かった。防災を中心に「福祉大会inあおもり」を伝える。	15
		DA2013-009	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 司法手続きにおける配慮を～障害者基本 法が求めるもの～	2011年に改正障害者基本法が成立し施行された。その中に新しく盛り込まれた条文の1つが司法手続きにおける配慮である。ろう者がかかわる裁判や事件の取り調べ等のコミュニケーション保障について考える。(善岡修・田門浩)	15
		DA2013-010	B-3	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ こころの病① ストレスと発症	聴覚障害者が精神疾患になった場合、聴覚障害の理解が必要だと言われる。2回シリーズで、統合失調症のろう者の発症から回復までを例に、聴覚障害者の精神保健について伝える。1回目は、聴覚障害者にとってのストレス、治療におけるコミュニケーションの大切さに焦点をあてる。(内山久美子・片倉和彦)	15
		DA2013-011	B-3	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ こころの病② 仲間・生きがいと回復	都内に住む統合失調症のろう者(48歳)は、作業所に通い、弁当の調理の仕事をするようになってから、やりがいを感じるようになった。また、精神疾患のある聴覚障害者の仲間と会う場が支えになっている。こころの病シリーズの2回目は、生きがいのなる目標を作ることや、仲間作りの大切さに焦点をあてる。(内山久美子・筒井優子・森せい子)	15
●		DA2013-012	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 闘う人生 大矢運さん ① 差別をなくすために	大矢運さんは「淡路ふくろうの郷」で施設長を務めている。ふくろうの郷には聞こえないお年寄りが多く暮らしている。いつも穏やかな笑顔でお年寄りと接する大矢さんの人生は、まさに闘いの連続だった。大矢さんの闘う人生を2回シリーズで送る。(村松裕子・大矢運)	15
		DA2013-013	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 闘う人生 大矢運さん ② 聞こえない高齢者のために	ろう学校時代、教師たちの差別や偏見と闘った大矢運さんは、卒業後は社会の中でのさまざまな壁に立ち向かった。大矢運さんの闘う人生シリーズ2回目は、聞こえない高齢者が暮らしやすい社会にしようとして活動した思いを伺う。(村松裕子・大矢運・大矢小百合)	15
		DA2013-014	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 日々は修業 表具師 中河吉由樹さん	表具師の中河吉由樹(なかがわよしゆき)さんは中途失聴のために、目指していた表具師の道を一時はあきらめた。だが復職を可能にしたのは人工内耳だった。表具師という仕事を「人生でこれほど打ち込めたものはない」と言い切る中河さん。表具の技を磨き続ける中河さんの日々を追う。(中河吉由樹)	15
		DA2013-015	B-3	ろうを生きる難聴を生きる イグ・ノーベル賞と聴覚障害者 ～わさび臭火災警報装置～	イグ・ノーベル賞とは、人を笑わせ考えさせる独創的な研究に贈られる賞だ。化学賞を受賞した日本人のグループが開発したのは、「わさびのにおいで火災を知らせる警報装置」。装置の開発には、多くの聴覚障害者が協力した。(善岡修・松森果林)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2013-016	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話の権利を確立させよう 「手話言語法」制定運動	2011年7月「改正障害者基本法」が成立し、日本で初めて「手話は言語である」ということが認められた。手話の権利をさらに確かなものにとしようと、全日本ろうあ連盟が進めているのが、「手話言語法(仮称)制定推進事業」。手話言語法はどんな権利の確立を目指しているのか。ろうあ連盟の西滝憲彦さんに伺う。(西滝憲彦)	15
		DA2013-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる子を育てる親へ ～「コーダ」からのメッセージ～	聞こえない親から生まれた子どもをコーダと呼ぶ。聞こえない親は、コーダの子育てに迷いを持つことがあるという。そんな親たちを支援するため、聴覚障害者情報文化センターがDVDをつくった。乳幼児期や学齢期の子育てについてわかりやすく解説している。DVDに解説者として登場する金沢大学の武居渡さんと声優の佐田明さんの2人のコーダが、コーダの子育てについて語り合う。(武居渡・佐田明)	15
		DA2013-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ 若者が見たアメリカ① 前向きな生き方～西川 愛理さん～	手話で学べる大学「ギャローデット大学」。アメリカでは、大学で専門的なことを学ぶ若い難聴者やろう者が増えている。難聴者の西川愛理さんも、自分の難聴について学びたいと、アメリカの大学でオーディオロジーを学んだ。 海外の仲間と触れあう中で、難聴者として生きることの自信を持ったという西川さん。彼女を変えたきっかけについて伺う。(西川愛理)	15
		DA2013-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる シリーズ 若者が見たアメリカ② 聞こえない人への相談支援～高山亨太 さん～	精神保健福祉士であり、社会福祉士でもある高山亨太さんは、3年間ギャローデット大学で、聞こえない人のソーシャルワークについて学んだ。現在は、聴覚障害のある子どもたちの相談にあたっている。高山さんがアメリカでみた聴覚障害者への専門的な支援について伺う。(高山亨太)	15
		DA2013-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 検証 障害者自立支援法改正案	「障害者自立支援法改正案」は、名前を「障害者総合支援法」とあらため、これまで福祉サービスを受けられなかった難病の患者もサービスの対象に広げるなどとしている。 しかし、この法案に対しては、障害者自立支援法に代わる福祉制度について話し合ってきた「障がい者制度改革推進会議」の総合福祉部会の骨格提言とかけはなれている、などとする批判がある。 聴覚障害者団体からの出演者ととも、改正案を検討する。(小中栄一・新谷友良)	15
		DA2013-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる いつか宇宙へ ～JAXA開発員 長谷川晃子さん～	2010年、地球に帰還した、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の探査機「はやぶさ」。その「はやぶさ」の帰還作業にかかわった長谷川晃子さんは、聴覚障害のある女性職員だ。 子どものころから天文台に行くことが好きだった。いつか宇宙へ行くことを夢見て、「宇宙からの第一声は手話で伝えたい」と語る長谷川さんに、JAXAでの仕事の内容と、宇宙への思いを聞く。(松森果林・長谷川晃子)	15
		DA2013-026	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 早瀬憲太郎に聞く① ろう児のために	「NHKみんなの手話」講師の早瀬憲太郎さんは、ろうの子どもたちに日本語の力を身につけてもらおうと、ろう児向けの塾の活動をしている。ろう児が自分の夢を実現するときに、日本語の読み書きの力が必要になると思うからだ。ろう児のためにできることは何かと考え続ける早瀬さんにお話を伺う。2回連続シリーズの1回目。(早瀬憲太郎・貴田みどり)	15
		DA2013-027	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 早瀬憲太郎に聞く② 先輩の生きざまを 伝えたい	2009年、早瀬さんが監督した映画「ゆずり葉」が公開された。全日本ろうあ連盟の創立60周年を記念して制作されたこの映画は、「ろう児たちにろうあ運動の歴史をわかりやすく伝えたい」という早瀬さんの発案からスタートした。 早瀬さんに、聞こえるスタッフに囲まれて奮闘した撮影時のエピソードや、それぞれのシーンに込められた思いなどを伺う。2回連続シリーズの2回目。(早瀬憲太郎・貴田みどり)	15
		DA2013-035	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 第60回全国ろうあ者大会inKyoto① ～運動の歴史～	6月6日から10日まで、京都で「第60回全国ろうあ者大会」が開かれた。 1回目は、「運動」研究分科会に焦点を当てる。連盟副理事長の松本晶行さんが、本人に無断で不妊手術が行われるなど人権が無視されていた時代のことや、そうした状況を差別とらえて立ち上がった若者のことなどを語った。ほかに、参加者のインタビューなど。(松本晶行)	15
		DA2013-036	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 第60回全国ろうあ者大会inKyoto② ～制度改革～	京都で開催された「第60回全国ろうあ者大会」。2回目のこの回は、「制度改革」研究分科会に焦点を当てる。分科会で講演した、内閣府の障がい者制度改革推進会議担当室の東俊裕室長は、「福祉法の充実と並んで差別禁止法の制定が必要」と語る。ほかに、さまざまな展示や式典を紹介。(高田英一)	15
		DA2013-037	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 学校訪問・東京都立大塚ろう学校(1) ことばを育む	聞こえない子どもの教育はどのように行われているか、ひとつの例として、東京都立大塚ろう学校の取り組みを紹介する。 大塚ろう学校には幼稚園と小学部があり、本校と3つの分教室に173人の子供が通う。幼稚園では、手話を覚えるとともに、指文字を通して日本語を学んでいく。また、小学部では、手話を使って教科書を理解しながら、算数・国語・理科・社会を学ぶ。 ことばを育む授業を中心に取り組みを伝える。2回連続シリーズの1回目。	15
		DA2013-038	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 学校訪問・東京都立大塚ろう学校(2) 人と関わる力を	前回に引き続き、東京都立大塚ろう学校のとりくみを紹介する。2回目は、聴覚障害のある子どもに社会性や「人と関わる力」を身につけてもらう取り組みについて。 幼稚園になると、友だちとの関係が成長に重要な意味を持つようになる。聞こえない子どもたちは手話でけんかをし、相手の気持ちを手話で理解して仲直りしていく。 「大塚クラブ」というNPO法人の活動では、校内校外から聞こえない子どもが参加し、ろうの大人や地域の人とともに、さまざまな集団活動を行う。授業とは異なる場で、子どもたちは、人との関わり方を学んでいく。	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2013-039	B-3	ろうを生きる難聴を生きる あきらめない 沖縄“風疹児”比嘉真弓さん 前編	沖縄では、1960年代半ばに風疹が大流行した。妊娠中の母親が風疹に感染したことにより、およそ400人の障害児が生まれた。そのほとんどは聴覚障害がある子どもたちだった。 風疹児たちの一人、比嘉真弓さんは、聞こえないことでいじめにあったが、「自分がよくよしては前に進めない」と頑張った。高校生のとき、担任から勧められたのは、「NHK青年の主張」に出場すること。真弓さんは、自分の生き方を熱く語り、県大会で優勝した。2回連続シリーズの1回目。(比嘉真弓・平良京子)	15
		DA2013-040	B-3	ろうを生きる難聴を生きる あきらめない 沖縄“風疹児”比嘉真弓さん 後編	風疹児の一人、比嘉真弓さんは、現在県立病院で事務の仕事をしている。周囲に自分の障害のことを説明し、「口元を見せてはつきり話して」と伝えることで、スムーズに仕事を進めている。 最近では、「音楽」に挑戦。夫が始めた手話カフェで、車いすの歌手・我如古盛健(がねこせいけん)さんに出会ってから、苦手だった音楽が「ここに響く」と感じ始めた。自分の書いた詩を、自分のリズムとメロディーで、自分の声と手話で歌うことに挑戦し始めた。2回連続シリーズの2回目。(比嘉真弓・比嘉隆夫・我如古盛健)	15
		DA2013-041	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 残存聴力活用型人工内耳	高音域の聴力がなくなっても低音域の聴力が多少残っている人は、これまで人工内耳装用の対象にならなかった。しかし、低音域の聴力が残っていても、生活上、著しく不便を感じる人は少なくない。そうした人のために作られたのが、低音域の聴力は補聴器で補いながら、高音域は人工内耳を利用する「残存聴力活用型人工内耳」だ。 虎の門病院(東京)の耳鼻咽喉科部長・熊川孝三さんに、「残存聴力活用型人工内耳」の特長や適応について聞く。(熊川孝三)	15
		DA2013-042	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 補聴は工夫できる ～めだかの学校～	「めだかの学校」(愛知県蒲郡市)は、難聴者自身が、聞こえをよくするための工夫を重ね、聞こえに悩む人の相談に乗っている団体だ。校長の三好和宏さんは、47歳のとき、病気がもとで難聴になり、補聴器を使い始めた。しかし、いまひとつその効果が実感できず、さまざまな補聴の工夫を重ねてきた。 「めだかの学校」の様子と、三好さんたちの補聴の工夫の数々を紹介する。(三好和宏)	15
		DA2013-043	B-3	福祉ネットワーク シリーズ いま、“言葉”を力に① ろう重複障害者を支える	人は言葉によって、人とコミュニケーションを取る。ろう重複障害を持つ方は、それが困難なために、孤立したり引きこもるケースが多いと言われる。 どのような取り組みが求められているのか、支援を行う名古屋の施設を取材した。(町永俊雄・金沢貴之・森本拓磨)	29
		DA2013-047	B-3	由香ちゃんは小さな通訳者 —ろう啞家族の9年間の記録—	若松由香ちゃん(9歳)は、兄と両親の4人家族。両親は耳が聞こえないろうあ者だ。由香ちゃんは今日も小さな手を動かして、両親のために一生懸命通訳をする。一家4人の心温まる絆を描く、昭和60年代のろう者の生活を記録したドキュメンタリー。	46
		DA2013-048	A-3	ハートネットTV みつえとゆういち —親子で紡ぐ“認知症”漫画—	日本の認知症高齢者は300万人を超え、今多くの人たちがさまざまな困難に直面しながら家族の介護に格闘している。認知症とどう向き合えばよいのだろうか。記憶を失いながら生きるとはどういうことなのだろうか。番組では、自身も認知症の介護の経験がある作家の田口ランディさんとともに、岡野さんの漫画が問いかけるメッセージをひもときながら、認知症介護のあり方を見つめ直す。(岡野雄一・田口ランディ)(NHKHP参照)	29
		DA2014-020	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる仲間と最高のダンスを 高木里華さん	高木里華さんは、手話パフォーマー。38歳でOLを辞め、専門学校でダンスを学んだ。それまでになかった、手話とダンスを融合させた表現をしたと思ったからだ。以来10年間、もとの曲の歌詞を自然な手話に移し替える翻訳と、ダンスを取り入れたリズムカルな動きを追求してきた。 高木さんは、いま、聞こえる仲間とともに、手話パフォーマーの公演をしている。聞こえない人と聞こえる人が助け合うことで、よりすばらしいパフォーマンスができると思う高木さんの思いと、ろう学校でのワークショップの様子を紹介する。(高木里華)	15
		DA2014-021	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話のすすめ 中途失聴した人へ 佐々木あやみさん	佐々木あやみさんが聴力を失ったのは27歳のとき。子ども向けのショーで、司会と歌の仕事をするのが好きだった佐々木さんにとって大きなショックだった。しかし、「中途失聴者のための手話教室」にめぐり会い、通じる喜びを知って元気を取り戻した。 佐々木さんは、さまざまな人が気軽に手話を学んだり話せたりする場を作ろうと、「しゅわつとつばさ」という団体を立ち上げ、月1回の集まり「手話しゅわ〜」を開いている。中途失聴者、ろう者、聞こえる人が気軽に参加し会話を楽しむ「手話しゅわ〜」の様子を紹介しながら、中途失聴した人にとっての「手話」について、伺う。(佐々木あやみ)	15
		DA2014-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる もっとならぶ ～よりよい聞こえのために～	「ヒアリングループ(磁気誘導ループ)」は、補聴器や人工内耳に明瞭な音を送り込むためのしくみのひとつ。マイクでひろった音声をアンプで増幅し、輪にした電線に流す。海外では、ホールや駅などの公共施設をはじめ、タクシーの中などにも設置されているが、日本では、ほとんど普及していない。 音楽会の会場にループを設置する試みなどを紹介しながら、ループ普及の活動を続ける東工大教授の中村健太郎さんに、ループの可能性について聞く。(中村健太郎)	15
		DA2014-023	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “進化する字幕”を ～要約筆記サークル「まごのて」～	名古屋市の要約筆記等研究連絡会「まごのて」は、「名古屋難聴者・中途失聴者支援協会」と連携して、情報保障の取り組みを続けてきた。そのモットーは「進化する字幕」。ユーザーの意見を聞き、情報保障をする「場」を広げ、やりかたを工夫してきた。たとえば、字幕付きプラネタリウム上映では、名古屋市科学館の学芸員の解説に合わせて字幕を出す。わかりやすい要約、読みやすい行数や字数、色、字を出す位置などを工夫し、職員のアドリブにもリアルタイムで対応する。 字幕付きプラネタリウム上映を中心に、「まごのて」のさまざまなチャレンジについて紹介する。(荒川清美)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2014-029	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 補聴器の使いこなし術	最近の補聴器の発達はめざましく、不快なハウリングや騒音などの特定の周波数の音の抑制が可能になっている。しかし、補聴器を自分仕様で調整するアフターケアが必要になる。これから補聴器を買おうとする初心者クラスに向けて、補聴器の使いこなし術を紹介する。(松森果林・中川辰雄)	15
		DA2014-030	B-3	ろうを生きる難聴を生きる モバイル型遠隔情報保障システムとは？	モバイル型遠隔情報保障システムは、教室と、パソコンの文字通訳をする情報保障者をスマートフォンでつなぐ。そして先生の声を遠隔地の通訳者が文字に起こして、インターネットを利用して教室にあるスマートフォンに表示する。教育現場での情報保障のあり方を変える可能性を持つこのシステムを紹介する。(松森果林・三好茂樹)	15
		DA2014-031	B-3	ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック2013 めざせ二連覇 ～ハンマー投げ 森本真敏さん～	ハンマー投げの森本真敏さんは、前回のデフリンピックにはじめて参加し、金メダルを獲得した。森本さんは、現在プロバスケットボールチームを運営する会社が立ち上げた財団法人に所属し、自らの記録を更新するために努力を続けている。普段の練習を通して、森本さんの思いを伝える。(森本真敏)	15
		DA2014-032	B-3	ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック2013 初のメダルを！ ～バスケットボール女子チーム～	前々回のメルボルン大会に初出場を果たし、前回の台北大会では6位に終わったバスケットボール女子チーム。今回は初のメダルを目指して大会に臨む。代表合宿や選手の日常を追いながら、メダルを目指すバスケットボール女子チームを紹介する。(大庭紀美・宮永順子)	15
		DA2014-033	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話狂言の心を伝える ～日本ろう者劇団の海外公演・前編～	日本ろう者劇団は、日本の伝統を伝える狂言をろう者が手話で演じる手話狂言に力を入れている。手話狂言を演じる廣川麻子さんを紹介し、これまでの海外公演でも「日本人の心を感じられた」と評判になっている手話狂言の魅力を伝える。(廣川麻子)	15
		DA2014-034	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話狂言の心を伝える ～日本ろう者劇団の海外公演・後編～	言語の違いや、聞こえる聞こえないに関係なく、観客を楽しませることに力を入れてきた日本ろう者劇団。劇団員の砂田アトムさんは、手話でさまざまな演技をする「一人芝居」というパフォーマンスを演じる。彼の日常を紹介しながら、新たな表現を模索する劇団の姿を伝える。(砂田アトム)	15
		DA2014-035	B-3	ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック2013 世界の頂点を目指せ ～水泳 今村可奈さん・金持義和さん～	デフリンピックでメダルが有望視されている2人の水泳のアスリートを取り上げる。大会初出場ながら、背泳ぎでろうの世界記録を狙う大阪体育大学2年の金持義和さんと、水泳チーム全体のキャプテンを務める今村可奈さん。2人の練習風景を追いながら、デフリンピックにかける思いを聞く。(金持義和・今村可奈)	15
		DA2014-036	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 障害者差別を解消するために ～第61回全国ろうあ者大会in山形～	山形で開催された第61回全国ろうあ者大会。平成25年は、障害者総合支援法が施行され、さらに障害者差別解消法が国会で成立した。障害者への差別をなくし権利を守るために、今後何が必要なのか。基調講演やパネルディスカッションの様相を伝える。(松本正志)	15
		DA2014-037	B-3	ろうを生きる難聴を生きる よっしゃ！手話で笑わせたらうか ～手話落語家・喜楽舎馬次郎の世界～	4代目桂福園治の門下に42歳で入り、9年前に独立したろう者の遅咲きの芸人が喜楽舎馬次郎(きらくやうまじろう)さん。「手話の分からない人も身振りやしぐさで笑わせたい」と語る馬次郎さんの活動や芸を2回シリーズで伝える。(喜楽舎馬次郎(馬場元紀)・村松裕子)	15
		DA2014-038	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 喜楽舎馬次郎 ～手話落語の世界～	手話落語家・喜楽舎馬次郎(きらくやうまじろう)さんを紹介するシリーズ2回目。馬次郎さんの芸は、小話や現代落語、古典落語など多岐にわたる。日々の努力から生み出された数多くの作品のうち「凧(たこ)」と、古典落語「長短」の2作品をご紹介します。(喜楽舎馬次郎(馬場元紀))	15
		DA2014-039	B-3	ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック・メダリストに聞く～前編～	デフリンピックの夏季大会に、日本からは149人の選手が参加し、金メダル2個、銀メダル10個、銅メダル9個、あわせて21個のメダルを獲得した。今回から2回にわたって、デフリンピックのメダリストたちの活躍ぶりを紹介する。今回は、男子水泳の金持義和さんと次隆太郎さんに話を伺う。(金持義和・次隆太郎・竹花康太郎・佐藤麻梨乃)	15
		DA2014-040	B-3	ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック・メダリストに聞く～後編～	デフリンピック夏季大会のメダリストたちを紹介する2回目。今回は、シングルスで金・ダブルスで銀・団体で銅メダルを獲得した上田萌選手をはじめとする卓球女子の4人の選手、そしてハンマー投げの森本真敏選手に話を伺う。(上田萌・佐藤理穂・川崎瑞恵・有馬千寿子・森本真敏・早瀬久美)	15
		DA2014-041	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 災害に備える ～映画「生命のことづけ」から学ぶ～	早瀬憲太郎監督の映画「生命のことづけ ―死亡率2倍 障害のある人たちの3・11―」では、東日本大震災での障害者の死亡率が住民全体の死亡率と比べると2倍だった事実が語られている。早瀬監督と日本障害者フォーラム・藤井克徳さんとの対談を通して、災害時に生きのびるためにはどうしたらよいかを考える。(早瀬憲太郎・藤井克徳)	15
		DA2014-042	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 災害に備える ～情報を得るために～	東日本大震災では、聴覚障害者の防災において、さまざまな課題が浮き彫りになった。その一つとして、緊急情報が聴覚障害者に十分に伝わらなかったことが挙げられる。「みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター」(みみサポみやぎ)の活動を通して、災害時の情報入手について考える。(佐藤昭子・渡辺征二・渡辺勝子・宮本まどか)	15
		DA2014-043	B-3	バリバラ 就労・障害者の悩み	企業に課せられる障害者の雇用率が2%にアップした。しかし企業には「任せる仕事がない」「経営が厳しくて雇えない」など悩みの声がいっぱい。また、障害者自身の「面接でどこまで言えばいい？」「介助つきだと就職できない？」などの質問に、経営者や雇用アドバイザーなど障害者雇用の専門家が回答する。(山本シュウ・玉木幸則・大橋グレース)	29
		DA2014-047	B-3	みらいのつくりかた YUMIE 難聴のプロボディボーダー	プロボディボーダーのYUMIEさん(甲地 由美恵)は、1975年、2歳の時、両耳の聴力を失った。海は人種差別も無く、全ての人に平等で、厳しくもあり、やさしくもあるというYUMIEさん。海を通して生きる喜びを見つけたというYUMIEさんが、自身の人生について語る。(甲地由美恵)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:後藤美幸	3
		DA2014-048	B-3	生きるを伝える 井戸端手話の会 主宰 松森果林	小学4年で右耳を失聴。中学から高校にかけて左耳の聴力も失った松森さん。「耳が聞こえなくなったあなたは障害者」と言われ、その言葉の重さにショックを受け、死ぬことも考えた。そんな絶望の中、何事にも前向きになれたきっかけと、「生きる」ことのテーマを話す。(松森果林)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:後藤美幸	4
		DA2014-049	B-3	生きるを伝える デフラグビー日本代表 柴谷晋	柴谷さんがラグビーを始めたのは中学1年生の時。高校でもラグビーに打ち込み、大学2年生の時、フランスにラグビー留学したが、突発性難聴を患いラグビーから距離を置くことになった。しかしデフラグビーの存在を知り、ラグビーへの思いがよみがえった。(柴谷晋)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:後藤美幸	4

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2014-050	B-3	24時間テレビ ニッポンって…?この国のかたち 松本潤と耳の不自由な子どもたち 心をひとつに刻むタップダンス	日本テレビの「24時間テレビ愛は地球を救う」の中の企画として、嵐の松本潤が、ろう学校の生徒とタップダンスを武道館で披露する。音が聞こえない子どもたちが、どうやってタップを合わせるのか、子どもたちと松本潤の練習から本番までを紹介する。(松本潤・HIDEBOH・立川ろう学校の生徒たち)	23
●		DA2014-051	A-3	サラリーマンライフ ～ろう者と聴者が共に働く職場づくり～	近年、ろう・難聴者の企業への就職は年々増え、職業分野も多様化している。ろう・難聴者と共に働く職場環境づくりに取り組んでいる会社を取材し、ろう・難聴者と聴者がコミュニケーションを図ることができ快適に働くことができる職場環境とは何か、そして、その環境をどのように整えているかを紹介する。今村彩子監督作品。	46
●		DA2014-052	A-3	交通事故裁判 ～手話ができなくなったことを言語障害として認めて欲しい～完全版	名古屋に住む大矢貴美江さん(ろう者)は、交通事故で手にケガを負い、手話でコミュニケーションを図ることが困難になった。ろう者が手話で話すことが困難になったら言語障害にあたるが、保険会社は言語障害として認めなかった。手話ができなくなったことを言語障害として認めたいと、大矢さんは裁判を起した。今村彩子監督作品。(大矢貴美江・大矢達哉)	27
●		DA2015-003	B-3	聴覚障害者のみなさんへ 盲ろう児を育む① ことばをゆたかに	盲ろう児のことばの獲得方法について紹介する。盲ろう児は、自然に周囲で起きることを見聞きすることができないため、一つ一つの体験の場を作り、その経験を積み重ねてことばにつなげていく。また周囲の大人とのコミュニケーションも大変重要で、欠かせない行為だ。特に、盲ろうの大人との会話は、同じ視点を共有でき、疑問も受け止めてもらえるため、とても重要な体験となる。(小椋英子・森敦史・中澤恵江)	15
		DA2015-004	B-3	聴覚障害者のみなさんへ 盲ろう児を育む② 人とかがわかれる子どもに	盲ろう児の教育についての第2回目。視覚と聴覚、そして知的障害を併せ持つ子どもの教育について紹介する。柴田剛司くんは生まれつき、難聴弱視と重い知的障害を持っている。お母さんは触覚で理解しやすいサインを作って、剛司くんとコミュニケーションしてきた。剛司くんを支える徳島県立ろう学校での取り組みも交えてお送りする。(小椋英子・柴田剛司・中澤恵江)	15
		DA2015-013	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話言語条例を考える	鳥取県で成立した手話言語条例は、手話を言語として認めた全国で初めての条例だ。手話言語条例で私たちの環境はどのように変わるのか。今後の課題は何なのか。東京で開かれた手話言語条例のシンポジウムを通じて、聞こえない当事者と共に考える。(松田峻・平井伸治・田岡克介・西滝憲彦・石野富志三郎)	15
●		DA2015-014	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 心ひとつに響かせて ～“ろう太鼓”が結ぶ絆～	群馬県にある太鼓のグループ「心響(しんきょう)」は、メンバーの大半が聴覚障害者。心響の会長の小沢さんは、太鼓との出会いで人生が変わったという。今、心響は全国のろう太鼓グループと連携し、交流を深めて活動を広げようとしている。(小沢美保代・加藤智差子)	15
		DA2015-015	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 「働く」を見に行こう! ～先輩社会人を訪ねて①～	多くの聴覚障害者は、聴者とともに職場で働いている。聴覚障害者が気持ちよく働くためには、聴覚障害への理解とさまざまな配慮が欠かせない。聴覚障害者の働く実際の職場とはどんなところなのか。現役大学生が先輩社会人の職場を訪ね、働き方や生き方を伺う。(仲井健人・田中英之)	15
		DA2015-016	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 「働く」を見に行こう! ～先輩社会人を訪ねて②～	改正障害者雇用促進法の施行に向けて、障害のある人が働く職場の環境整備が急がれている。大学生が先輩のもとを訪ね、働き方や生き方をたずねるシリーズの第2回目は「目で聴くテレビ」で働くろう者スタッフを訪ねる。(田原里絵・奥田知美・柳喜代子)	15
		DA2015-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 自分らしく暮らしたい… ～拝見!ユニバーサル・ホーム～	北海道の函館市に、聞こえる人も聞こえない人も楽しく暮らすことのできるユニバーサル・ホームがある。ホームでは、視覚障害者が暮らしやすいよう点字ブロックが設置され、廊下には車椅子でも楽に通れる広さだ。室内には聴覚障害者用のお知らせランプも設置され、事務所には手話通訳者とガイドヘルパーがいて24時間住人を見守る。全国でも珍しいユニバーサル・ホームを訪ね、そこで暮らす聴覚障害者にお話を伺う。(NPO法人ユニバーサルホーム函館をつくるの皆さん)	15
●		DA2015-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 理想的な情報保障とは ～全国中途失聴者・難聴者福祉大会in 沖縄～	2014年1月沖縄で開かれた全国中途失聴者・難聴者福祉大会では、障害者権利条約を踏まえ、中途失聴者や難聴者にとっての理想の情報保障は何かを考える分科会がもたれた。要約筆記派遣事業は必須事業だが、全国の実施率は100パーセントに至っていない。そうした現実を変えるべく活発な議論が行われた様子を送る。(高岡正・三宅初穂)	15
		DA2015-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる みんなと雪の中で ～子どもたちのスキー教室～	長野県菅平高原スキー場で開かれた、耳の聞こえない子どもたちを対象にした「デフわんぱくスキー・スノーボード教室」。小学3年生から高校1年生まで63人の参加があった。スキーを教えるスタッフの大半がろう者で、手話による指導を受けられる。初心者にはスタッフがつきっきりで身振り手振りで教えてくれる。教室では同じ聞こえない仲間との出会いも貴重な経験だ。(「デフわんぱくスキー・スノーボード教室」参加者とスタッフのみなさん)	15
●		DA2015-033	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ソーシャルワークを広げたい ～聴覚サポート「なかま」～	日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会のスタッフは、東日本大震災で被災した聴覚障害者に支援活動を行い、その経験を基に相談支援の活動を全国に広げてきた。それが、全国相談支援事業、聴覚サポート「なかま」だ。今後、聴覚サポート「なかま」は四国で重点的に活動を進めていく予定だ。(矢野耕二・館脇春香)	15
		DA2015-034	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ソーシャルワークを広げたい ～ろう学校での取り組み～	ソーシャルワーカーの矢野さんは、学校でのソーシャルワークに力を入れている。いじめ、虐待、発達障害などのケースに応じて、関係する専門家を交えてサポートするほか、ろう学校を卒業する子どもたちに、就職・進学後の環境になじめるよう、アドバイスも行う。(矢野耕二・神部ほなみ)	15
		DA2015-035	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 町に手話が広がった ～手話言語条例の鳥取県は今～	平成25年10月、鳥取県で手話言語条例が制定された。手話を言語と認めた全国で初めての条例だ。条例制定後、鳥取県では、手話を普及させるさまざまな取り組みが進められている。制定から8か月が過ぎた現在の、取り組みの状況を紹介する。(石橋大吾(鳥取県聴覚障害者協会事務局長))	15
		DA2015-036	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 地域の防災力を高めるために ～第62回全国ろうあ者大会in長野～	平成26年6月に長野で開かれた第62回全国ろうあ者大会から、研究分科会「防災」のもようを紹介する。テーマは「聴覚障害者の地域の防災力を高めるには」。気象庁や大学教授といった専門家を招いて、それぞれの地域で聴覚障害者を災害から守る防災力を高めるための具体的な方策を提案、検討していく。(田中淳・荒谷博・小倉健太郎・倉野直紀・長谷川芳弘)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DA2015-046	B-3	ハートネットTV ぼくたちのサイン ～難聴のエースと仲間たち 最後の夏～	島根県の益田東高校野球部のエース廣中蒼磨(ひろなかそうま)君は先天性の難聴だ。話すことにも障害があり、チームメートとのコミュニケーションには簡単な手話と指文字を使う。エースを支えるために、チームメート80人全員が指文字を覚えた。試合中も指文字や身振りなどのさまざまな工夫で、チームはエースの蒼磨君を支え、蒼磨君はエースとしてチームを支えてきた。 チーム一丸となって甲子園を目指す夏、蒼磨君と仲間たちの絆の物語。(廣中蒼磨・益田東高校野球部の皆さん)	29
	●	DA2015-050	B-3	JNNRポルターージュ 盲ろう者に生まれて… ～見えない聞こえない19歳“学びの軌跡”～	森敦史さんは先天性の盲ろう者。生後半年ごろには視覚と聴覚に障害があることが分かった。大半の盲ろう者が人生の過程で重複障害になった人たちであり、敦史さんのような先天性の盲ろう者は極めて少ない。19歳になった敦史さんの希望は大学進学だ。大学に通うには、授業のほかに登下校のサポートも欠かせない。だが現在の制度では、授業の通訳や通学等のサポートを行う通訳介助者にかかる費用はすべて自己負担だ。盲ろう者を支える制度の現状をまじえながら、敦史さんの大学への挑戦を追う。(森敦史)手話表現者:小野寺善子	25
	●	DA2015-052	B-3	未来へのおくりもの 目と耳の両方に障がいがある“盲ろう者” を支援する人たち	目と耳の両方に障害を持つ人は盲ろう者と呼ばれ、全国に約2万2,000人いる。その盲ろう者の方々の支援活動に取り組むのが全国盲ろう者協会。理事を務めるのは、ご自身も盲ろう者である福島智さんだ。福島さんは世界でも類をみない経歴の持ち主だった。(福島智)	28
	●	DA2015-053	A-3	五目ごはん ～私たちの生きる道～	「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」(2006)に出演している5人の卒業生の現在を追ったドキュメンタリー。仕事、結婚、育児など、それぞれが自分の人生を歩んでいる。大学時代に学んだことや出会い、経験が今につながっている。	82
	● ●	DA2016-001	A-3	ハートネットTV シリーズ 変わる障害者支援(1) 私のことは私が決める	障害者権利条約の中で注目される理念の1つが自分のことを自分で決める社会の実現である。しかし知的障害者の多くは判断力が不十分であるとして子どものころから親や周囲に決められた人生を歩む人が多い。 誰もが自分で自分のことを決められるための支援について考える。(山田賢治・奥山佳恵)	29
	● ●	DA2016-002	A-3	ハートネットTV シリーズ 変わる障害者支援(2) あなたの決断を支えたい	障害者権利条約が採択され、各国が条約の理念の実現に向け取り組んできている中、日本も自分自身で決められる社会を目指すための障害者支援を模索している。 障害者の自己決定を支援する活動例を見ながら支援のあり方を考える。(山田賢治・奥山佳恵)	29
	●	DA2016-004	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “ご当地手話”を伝えたい	福井ならではの手話を中心に、およそ3500語を編纂した手話集が、福井県越前市で刊行された。まとめたのは、地元で手話通訳を務めてきた建築士の福島幸一さん。「地元の手話を残したい」という福島さんの思いと、ろう者をまじえて単語を確定する話し合いの様子を紹介する。(福島幸一)	15
	●	DA2016-005	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 子育ては笑顔で ～東京・練馬 手輪るサロン～	東京・練馬区に、手話で交流し、子育てを支え合う集いがある。「手輪(しゆわ)るサロン」だ。サロンが生まれたのは2年前。聴覚障害者だけでなくみんなで交流する輪を広げることを目的に、ろうの長野留美子さんが聞こえるママと共同で立ち上げた。手話で新しい輪を広げるママさんたちの活動とその思いを描く。(樽谷香・長野留美子・星野征子)	15
	●	DA2016-006	B-3	ろうを生きる難聴を生きる もっと学びたい ～ろう・難聴高校生の学習塾～	ろう・難聴の生徒専門の大学受験塾が、新宿にある。ろう者の講師がいるほか、手話通訳とパソコン通訳が選べ、国語・英語・数学の3教科を学ぶ。日本社会事業大学の斉藤くるみ教授が、聴覚障害者のための進学塾を提案、日本財団の助成を受け、5年前にスタートさせた。塾の取り組みを紹介する。(斉藤くるみ)	15
	●	DA2016-007	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢はチャンピオン キックボクサー郷州力 前編	デビュー4年目にして14戦13勝という好成績をおさめている難聴のキックボクサーがいる。スーパーフェザー級の郷州征宜(ごうしゅうまさのぶ)さん。リングネームは郷州力(ごうしゅうりき)。攻撃的な試合運びを得意とする若手の有望株だ。夢を追う若きキックボクサーの日々を追う。(郷州征宜・加藤督朗)	15
	●	DA2016-008	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢はチャンピオン キックボクサー郷州力 後編	難聴のキックボクサー、スーパーフェザー級の郷州征宜(まさのぶ)さん。後楽園ホールで、今後の試金石となる試合が行われた。去年新人王を獲得した若手選手との対戦だ。両親や交際相手、会社の同僚たちが応援する中、結果はどうなるのか。郷州さんの挑戦を描く。(郷州征宜)	15
	●	DA2016-009	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 音楽を体で感じて ～ダンスチーム SOUL FAMILY～	聴覚が視覚に障害のある学生が学ぶ筑波技術大学は、聴覚障害者によるダンスが盛んだ。中でもOB、OG、現役学生の11人からなるダンスチーム「SOUL FAMILY(ソウル・ファミリー)」は、高い評価を得てきた。彼らのダンスへの熱い思いを伝える。(SOUL FAMILY)	15
	●	DA2016-010	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 壁は越えられる ～盲ろうの大学生 森敦史さん～	生まれた時からの盲ろう者としては、日本で初めて大学に進学した森敦史さん。東京三鷹にあるルーテル学院大学に通っている。授業には通訳介助者がつき、触手話などでコミュニケーションをしている。周囲の支えを受けながら、前向きに生きる森さんの姿を追う。(森敦史)	15
	●	DA2016-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 心で感じて踊りたい 手話パフォーマー 中嶋元美	手話を使って音楽や踊りの楽しさを伝える劇団「きいろぐみ」。ここに20歳の花形パフォーマーがいる。中嶋元美さんだ。高校1年生のときに聞こえなくなった中嶋さんは、「きいろぐみ」の手話パフォーマンスと出会い、聞こえなくても音楽を楽しみ、表現できることを知る。人生の一步を踏み出す彼女の日々を描く。(中嶋元美)	15
	●	DA2016-020	B-3	ろうを生きる難聴を生きる この音に心をこめて ～難聴のオカリナ奏者 仲里尚英～	沖縄で有名なブロのオカリナ奏者、仲里尚英さん。学生のときから音楽とともに生きてきたが、33歳のとき原因不明の難聴になり、ステージに立てなくなる。しかし、オカリナなら演奏できることに気づき、今では地元のテレビにも出演。全国各地で演奏活動を行なっている。仲里さんの半生をひもときながら、その情熱あふれる姿を追う。(仲里尚英)	15
	●	DA2016-021	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 教育にささげた人生 古河太四郎 生誕170年	明治11年に京都盲啞院を設立した古河太四郎。聞こえない子どもに言葉を教えるために、かな文字が書かれた板に玉を当てると、文字に対応する絵が飛び出す器具を考案するなど、さまざまな方法で教育を行った。生誕170年にあたり、古河太四郎の人生をひもときながら、日本のろう教育の原点に迫る。(坂井美恵子・岸博実)	15
	●	DA2016-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 実験中!“字幕電話”	電話の相手の声を字幕に変換するサービスが始まろうとしている。オペレーターが、相手の声を文字に変換、利用者はそれをスマートフォンなどで読むというものだ。サービスを行うのは、一瀬宗也(いちせむねや)さんが社長を務める沖縄のIT企業。字幕電話の仕組みや利用者の日常を取材、その可能性に迫る。(一瀬宗也)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2016-023	B-3	ろうを生きる難聴を生きる マジックで人生を切り開け デフマジシャン NOBU	世界で活躍するマジシャンを目指している難聴者がいる。デフマジシャンNOBUこと、上鶴伸夫さんだ。NOBUさんは、2010年に米国で開催された世界聴覚障害マジシャンズ大会・ステージ部門に出場し、優勝を果たした。練習に励むNOBUさんに密着し、マジックにかける思いに迫る。(上鶴伸夫)	15
		DA2016-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 私は負けない ～修行中！難聴の芸妓～	静岡県内の港町・清水で2年前から芸妓の修業に励んでいる女性ねね子さんは中程度の難聴だ。芸妓の募集を見つけ面接したが、接客時のコミュニケーション能力が心配され、不採用となった。ねね子さんは働きながら発音の練習を繰り返し面接に再挑戦、そして合格した。厳しい芸の道を歩むねね子さんの姿を見つめる。	15
		DA2016-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる この仕事にかける ～難聴の宮大工・渡辺健太～前編	寺社の建築、修理を手がける宮大工。この世界に飛び込んだ聞こえない大工がいる。渡辺健太さんだ。難聴だったが、工業高校で建築を学び、宮大工となった。渡辺さんの姿を追い、2回シリーズで取り上げる。前編では、渡辺さんの職人魂を描く。(渡辺健太)	15
		DA2016-026	B-3	ろうを生きる難聴を生きる この仕事にかける ～難聴の宮大工・渡辺健太～後編	寺社の建築、修理を手がける難聴の宮大工、渡辺健太さん。今の渡辺さんの目標は職人を育成することだ。時には若手が暮らす寮に泊まり込み、熱心に指導にあたっている。後編では、伊勢国一の鳥居の建てかえ工事に若い人たちと取り組みつつ、技術を後の世代に伝えようとする渡辺さんの姿を描く。(渡辺健太)	15
●		DA2016-027	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 知って得する！イマドキ補聴器最新情報	デジタル技術の進歩で高性能な機種が次々に作られている補聴器。その一方で、初めて購入した高齢者からのクレームも増加している。最新機器を紹介するとともに、使いこなすためのポイントもわかりやすく紹介する。	15
		DA2016-028	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞きやすい声を作れ！ 難聴者向けスピーカー	難聴者の聞こえを助ける機器として注目を集めている卓上スピーカーがある。難聴者の聞きやすい音にこだわり、小型化を進めたスピーカーは、難聴学級の授業や窓口での接客などに役立っている。さらに現在は、個人々の聞こえに対応したカスタマイズも進められている。(中石真一路)	15
		DA2016-029	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢はマンガ家！	ろう者の富嶋まもみさんは、ろう者の体験を4コマ漫画にしてブログで発信し、人気を集めている。昼間は不動産会社に勤めながら、プロのマンガ家を目指す富嶋さん。今夏、初めて雑誌向けに原稿を書くことになり、奮闘する。(富嶋まもみ)	15
●		DA2016-030	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 「家族と私」 ～盲ろう者のための本音ラジオ～	視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろうの女性3人にNHKのスタジオに集ってもらい、「家族と私」というテーマで話し合ってもらった。パートナーとの出会いや家族との	15
		DA2016-031	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 人生はコミュニケーションだ 通訳が暮らしを変える	兵庫県西宮市にあるNPO・聴覚障害者自立生活センターLICは、社会参加に立ちほだかる「聞こえない」という壁を乗り越えるため、多様な通訳サービスを展開している。それは、自治体が行っている公的な通訳制度では、通訳の派遣が認められないケースが多いからだ。通訳派遣を拡充していこうというLICの取り組みを追う。	15
		DA2016-032	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 誰からも愛されるパンを パン職人 東園子	熊本市内で、おいしいと評判のパン屋を営む・パン職人の東園子さん。重度難聴の東さんが、パン職人としてお店を軌道にのせるまでには数々の困難が待ち受けていた。本人の努力と家族の支えで、人気のパン屋さんを営む東さんの奮闘を追う。(東園子)	15
		DA2016-033	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 踊りは私の人生 ～琉球舞踊家 平良鈴華～	琉球舞踊の若き舞踊家として認められている平良鈴華さん(24)。生まれたときから難聴の鈴華さんは、小さいときから踊りが大好きで、難聴のためにつらいことがあった時も、踊ることで乗り越えてきた。琉球古典芸能のコンクールで最高賞まで受賞した彼女は、今、師範として教えられるようになるために、新たな試練に立ち向かっている。(平良鈴華)	15
●	●	DA2016-035	A-3	目撃！日本列島 心をつなぐ“千本ノック” ～盲目の夫婦の日々～	目の不自由な人たちの野球・グランドソフトボール。選手たちはボールの転がる音を頼りにプレーする。全盲の脇坂清さん(66歳)は、同じく全盲の妻・美津江さんとともに、週1回のノックの練習を26年間続けてきた。盲目の二人がノックに懸ける思いとは何か。(脇坂清・脇坂美津江)	23
●	●	DA2016-036	A-3	ハートネットTV エンジンの鍵みつけた ～発達障害とのはざまで～	全国から不登校の小中学生が集まる全寮制の学校に、幼いころ発達障害の疑いが強いと診断された少年が入学してきた。彼は同じ境遇の仲間と心を閉ざしていた。しかし、あることがきっかけで彼は仲間と心を開いていく。彼の成長の記録と彼を見守る先生と仲間の2年半に及ぶ記録。(嶋中洋行・加藤優衣人)	29
●	●	DA2016-037	A-3	ハートネットTV 私らしい“自立” ～NHK障害福祉賞50年～	NHK障害福祉賞は、50年前に始まった障害のある人や支援者の体験を集めた記録である。この記録は半世紀にわたる日本の福祉の歴史でもある。その中の1つである、27年前に障害福祉賞に入選した脳性まひの女性が、自立とは何かを考え続けた年月を振り返る。(林芳江・山田賢治)	29
●		DA2017-003	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 冬季デフリンピックへの道進め！ チームデフ青森 前編	4年に一度開かれるろう者のスポーツの祭典・デフリンピック。ろう者と難聴者で結成されたカーリングチーム「チームデフ青森」が、ロシアで開催される冬季デフリンピックに出場することになった。大会に向けて意気込むチームデフ青森の挑戦を追う。	15
		DA2017-004	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 冬季デフリンピックへの道進め！ チームデフ青森 後編	冬季デフリンピックに出場するカーリングチームの「チームデフ青森」。最近、試合や練習などで意見がぶつかり、チームワークが乱れている。チームワークを大切にしたいという思いはメンバー皆同じだ。そのために皆で話し合い、チーム結成当初のように団結していく選手たちを追う。	15
		DA2017-005	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話で楽しむ！金沢の旅	北陸新幹線開業により金沢市は観光客が増加した。その金沢市が自治体として初の取り組みを行っている。地元ろう者による手話の観光案内だ。お国言葉を変えた説明が、ろう者の中で評判となっている。手話による観光ガイドの魅力を探る。	15
		DA2017-006	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 日本語を学びたい	聞こえる人たちが、ふだん何気なく使う日本語。それを聞こえない人たちが習得するのは容易なことではない。文章がうまく書けず、職場で孤立している聞こえない人も多い。聞こえない人たちが直面する言葉の壁を乗り越えるために日本語を教える人がいる。(鈴木隆子)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2017-007	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 限界に挑め 密着！人工内耳アスリート <前編>	水泳、自転車、長距離走の3種目を行う競技「トライアスロン」。中でも最も長い距離226.2kmを競うのが「アイアンマンレース」だ。そのレースに挑む加藤伸一さん(55)は32歳のときに両耳を失聴した。加藤さんの限界に挑む挑戦を追う。(加藤伸一)	15
		DA2017-008	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 限界に挑め 密着！人工内耳アスリート <後編>	トライアスロンのアイアンマンレースに第二の人生をかける加藤伸一さん。加藤さんの夢は60歳のときに年代別世界チャンピオンになることだ。北海道で開かれたアイアンマンレースに出場した加藤さんの挑戦を追う。(加藤伸一)	15
		DA2017-009	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 見て笑える芸を 森崎さんの手話漫談	9年間で71万人が夢中になったブログがある。出演するのは、ろう者の森崎興蔵さん。日常の出来事を表情豊かな手話で描く手話漫談が人気だ。手話は身体全体で表現するもの。その面白さを知ってほしいという森崎さんの姿を追う。(森崎興蔵)	15
		DA2017-014	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 難聴が生んだものまね	ものまねで有名なタレントのコロケさんは、実は14歳のころから右耳がほとんど聞こえない。家庭が貧しく、病院に行かなかったため中耳炎を悪化させたのだ。ふさぎこんでいたコロケさんを前向きにさせたのが、ものまねとの出会いだった。難聴と向き合いながら、ものまね界をけん引してきたコロケさんのこれまでの人生を伺う。(コロケ・山田賢治)	15
		DA2017-015	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 会話が見える！ ～人をつなぐ音声認識アプリ～	人の声を文字に変換する音声認識技術スマートフォンやタブレットでも使えるようにしたアプリケーション。ある企業では朝礼や会議などで活用され、聴覚障害のある社員が聞こえる社員と同じ情報を得られるようになったと好評だ。音声認識アプリの可能性を探る。	15
		DA2017-016	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 笑顔のそばに卓球があった ～ろう者卓球日本一 伊藤優希17歳～	聴覚に障害のある高校3年生の伊藤優希君。伊藤君はアジア太平洋ろう者競技大会の卓球競技の日本代表選手だ。初めて日の丸を背負って戦う国際試合で頂点を目指す伊藤君の挑戦と、彼を支える友達を追う。(伊藤優希)	15
		DA2017-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 響け！ぼくらの“琉球壺太鼓”	沖縄で活動する聴覚障害者の太鼓グループがある。和太鼓に加え沖縄ならではのエイサー太鼓や琉球空手の演舞を組み合わせてオリジナルの楽曲を演奏している。リーダーは牧志正人さん。牧志さんの太鼓に込める思いを伺う。(牧志正人)	15
		DA2017-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 旅がくれた生きる勇気	名古屋市在住の難聴の映画監督・今村彩子さん。大学卒業後、耳が聞こえない人を主人公にしたドキュメンタリー映画を制作してきた。そんな彼女が、自身の母の死をきっかけに、聴者に対する心の壁を乗り越えようと、自転車で日本縦断の旅に出る。(今村彩子)	15
		DA2017-023	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “わたし”をあきらめない ～光と音をなくした27歳 荒美有紀さん～	22歳の時、突然の病で音と光を奪われた荒美有紀(あらみゆき)さん。それから5年、彼女は今、盲ろう者として同じ境遇の人たちのために活動している。前向きに生きる有紀さんの日常を追う。(荒美有紀)	15
		DA2017-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 孤立を防ぐために ～東日本大震災の教訓～	東日本大震災から5年。あの日、聴覚障害者はさまざまな困難に直面した。震災での聴覚障害者の死亡率は約2%。全住民の死亡率の2.5倍に上る。災害時、聴覚障害者が取り残されないためにはどうすればいいのか？被災地・宮城で始まった取り組みを紹介する。	15
		DA2017-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 一緒にがんばろう！ がんと向き合うために	皆川明子さんは10年前、乳がんを患い、「5年生存率30%」と告げられた。耳の間聞こえない皆川さんは、診察時には筆談を用いたが、時間の制約もあり、病気のことを相談できる人がいないことが悩みだった。そこで彼女は、医療情報が得られないろう者どうしが支え合うグループを作った。皆川さんの活動を追う。(皆川明子)	15
		DA2017-026	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢をかなえるために ～プロ野球 山田遥楓選手～ 前編	西武ライオンズから5位指名を受けてプロ入りした山田遥楓(やまだはるか)選手は19歳。2年目の今年は、1軍昇格を目指している。しかし彼は、右耳が全く聞こえない。プロの世界では、時にそれが大きなハンディとなり、危険なプレーにつながる。山田選手の挑戦の日々を追う。(山田遥楓)	15
		DA2017-027	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢をかなえるために ～プロ野球 山田遥楓選手～ 後編	西武ライオンズ、山田遥楓選手の挑戦の日々を追う後編。球団の春季キャンプで、ひときわ大きな声でチームを引っ張る山田選手。コーチの指示は、相手の右側に立って左耳で聞くようにするなど工夫して練習に参加している。(山田遥楓)	15
		DA2017-028	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 緊急報告・熊本地震 聴覚障害者は今	熊本地震で被災した聴覚障害者の置かれている現状と、今現在得られる支援情報について緊急報告する。(松崎文)(この番組は、平成28年4月23日に生放送されたものです)	15
		DA2017-029	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 伝えたいことがある 学生ディレクター 小渡佑希子	聴覚障害者の手がけた作品が集まる「さかの映画祭」で、大賞を含む3冠に輝いたドキュメンタリー映画「ゆいまーる 寺子屋」。聞こえない中高生が通う学習塾を描いている。制作したのは、沖縄大学の学生・小渡佑希子(おどゆきこ)さん。重度の難聴で、この塾の卒業生でもある小渡さんの、塾への熱い思いが込められている。(小渡佑希子)	15
		DA2017-034	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 道を拓く 盲ろう者と盲導犬	盲ろう者として、日本で初めて盲導犬の使用を認められた門川紳一郎さん(51歳)。歩く喜びを手にしたものの、初めての試みゆえ、さまざまな課題に直面する。相棒ベイスとの試行錯誤の日々を見つめる。(門川紳一郎)	15
		DA2017-035	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 一歩踏み出したどりに着いた頂上 登山家 田村聡	2016年5月、エベレストの登頂に成功した田村聡さん(51歳)。田村さんは生まれつき耳がほとんど聞こえない。ろう者の登頂は、日本人で初めての快挙だ。3回目のチャレンジで登頂に成功した田村さんに、どんな苦労を乗り越え成功したのか、お話を伺う。(田村聡)	15
		DA2017-036	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話と口話 ～ろう教育130年の模索～	手話は、聴覚に障害のある子どもたちにとって自然に身につけることができる言語だ。けれども日本では、十数年前まで、多くのろう学校で手話は禁止されていた。それまでの約100年間、日本のろう教育が、アメリカから入った口話教育を主流にしてきたからだ。今回は、日本のろう教育のたどった歴史を見つめる。	15
		DA2017-040	B-3	ファミリーヒストリー 斉藤由貴	アイドル歌手としてデビューし、今は女優として映画やテレビ、舞台で大活躍する斉藤由貴さん。そのルーツには壮絶な物語があった。由貴さんの母方の祖父母は聾者だ。祖父・水島吉男さんは11歳で東京聾啞学校に入学。卒業後は帯の裁縫所で働き、36歳で独立して自分の店を持った。多くの聴覚障害者を自分の店に雇い、また、日本聾啞協会横浜支部を立ち上げ委員長にも就任した。(斉藤由貴・今田耕司・田中清)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:荒井美香	45

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●	●	DA2017-042	B-3	ハートネットTV 笑顔のそばに卓球があった ～ろう者卓球日本一 伊藤優希17歳～	広島県立広島南特別支援学校に通う3年生、伊藤優希君は卓球の日本代表に選ばれた。伊藤君は2015年1月に行われた「全日本・全国ろう者卓球選手権大会」で史上初の男子シングルス2連覇を達成している。伊藤君が卓球を始めたのは、小学校5年生の時だ。(伊藤優希)	29
●	●	DA2017-043	B-3	ハートネットTV 静かでうるさい居酒屋	東京の大久保にある居酒屋「ふさお」はいつもお客さんでいっぱいの人気店。店主自慢の串揚げを片手に盛り上がるお客さんたちが、よく見ると普通の店と様子が違う。店で飛び交うのは「手話」だ。ろう者の夫婦が営むこの店では手話が「公用語」。ここには聴いを求めてやってくるろう者も、そして手話の魅力にひかれて来る聞こえる人もいる。(吉岡富佐男・吉岡かつ江)	29
●	●	DA2018-001	A-3	ハートネットTV シリーズ 相模原障害者施設殺傷事件 言葉はなくても 重度知的障害のある人 たち	相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で、19人が殺害され27人が負傷した事件が起きた。容疑者は取り調べの中で「意思疎通ができない人々を刺した」と語った。ネット上でも「知的障害者は怖い」「何を考えているか分からない」などの声が上がった。知的障害者の思いを知ろうと模索する人たちの活動を追う。	29
●	●	DA2018-002	A-3	ハートネットTV 罪を犯した発達障害者の再出発 第1回 少年院の現場から	罪を犯した少年たちに立ち直るための教育を行う少年院。罪を犯した少年の中には発達障害や、その疑いがある人もいることが分かった。しかし発達障害は外見では判断しづらく一般の少年と同じ教育が行われてきた。そこで国は発達障害のある少年に対する指導方針を打ち出し配慮ある指導を促した。その成果と課題について考える。(中野 淳・藤川 洋子)	29
●	●	DA2018-003	A-3	ハートネットTV 罪を犯した発達障害者の再出発 第2回 出所、そして社会へ	障害への支援や配慮が受けられないため罪を犯してしまう人たちがいる。地域生活定着支援センターは、こうした人たちの再犯を防ぐために活動している。中でも先進的な取り組みをしている長崎県の地域生活定着支援センターの取り組みを紹介する。(藤川 洋子・伊豆丸 剛史・中野 淳)	29
●	●	DA2018-004	B-3	探検バクモン 見えない聞こえない でもね…	爆笑問題がやってきたのは筑波技術大学。ここは日本で唯一、聴覚や視覚に障害がある人だけが通う大学。障害があっても社会でリーダーになれるような人材を育成するため30年前に設立された。まずは視覚障害者のキャンパスへ。体育館では音を頼りにバスケットや卓球を楽しむ学生たちの姿。聴覚障害者のキャンパスでは、聴覚障害者のために工夫された校舎の構造や、さまざまな情報保障を駆使した授業の様子を探る。(爆笑問題)	25
●		DA2018-006	B-3	ハートネットTV ブレイクスルー File. 32 共に挑み、走り続ける ～陸上競技選手 高田裕士 千明	アスリートの高田千明さん裕士さん夫妻。千明さんは視覚障害者、裕士さんは聴覚障害者だ。国内ではトップアスリートの二人だが、まだ国際大会で金メダルは獲得していない。互いに高めあい、頂点を目指す夫婦のブレイクスルーに迫る。(高田千明・高田裕士・風間俊介)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:佐沢静枝	29
●		DA2018-007	B-3	ハートネットTV ブレイクスルー File. 48 “わたし”をあきらめない 光と音をなくした27歳 荒美有紀さん	盲ろう者の荒美有紀さんは22歳の時、突然の病で光と音を失った。一時は生きる意味を見失いかけるが、指点字との出会いでコミュニケーションを取り戻す。今では、指点字を通して自らの思いを発信し、同じ境遇の人たちのために活動している。「見えなくても聞こえなくても、わたしの人生をあきらめない」そんな荒美さんのブレイクスルーに迫る。(荒美有紀・風間俊介・安藤桃子)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:佐沢静枝	29
●		DA2018-010	B-3	ハートネットTV シリーズ 戦後71年 第2回 わたしが見た“ろう者の戦争”	自らも聴覚障害のあるディレクターが、ろう者の戦争体験を取材する。大阪にある聴覚障害者用の老人ホームで、徴兵検査で不適合になり軍需工場に徴用された男性の話聞く。東京在住の女性は、戦時中満足に教育を受けられなかったために日本語の読み書きや意味をつかむことが苦手だと話す。これら取材映像を元に、視覚障害者を中心に障害者の戦争について調べている盲教育史研究会の事務局長と、30年にわたり被爆ろう者の証言を集めている手話通訳者、2人のゲストを交えて障害者の戦争について考えていく。(岸博美・仲川文江)	29
●	●	DA2018-013	B-3	ハートネットTV 静かで、にぎやかな学校 ～手話で学ぶ明晴学園～	聞こえない子どもたちが手話で学ぶ明晴学園は、静かでないが学校。ここではすべての授業が手話で行われる。子どもたちの第一言語は手話。小学4年生の手話の授業では、国語の教科書の獲得、言葉の意味を深く考えながら手話で表していく。手話を母語として獲得し、生き生きと言葉を紡ぐ子どもたちの姿を追う。	29
●	●	DA2018-016	B-3	SWITCHインタビュー 達人達(たち)Vol. 145 宇宙のなかで バリアフリー研究者 福島智×生命科学 者 柳澤桂子	視力と聴力を失い、盲ろう者となった福島さん。指点字という方法で勉強を続け、バリアフリー研究者となった。一方柳澤さんは、最先端の遺伝子研究に取り組むが、31歳の時、突然原因不明の難病に襲われる。以来、病と闘いながら生命科学について思索をめぐらせている。障害や病とたたかってきた2人が、命と存在をめぐる対話を重ねる。(福島智・柳澤桂子)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:森田明日	59
●		DA2018-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 光と音が薄れゆく中で ～グラウンドソフトボールと駆け抜けた夏～	目がほとんど見えない黒澤悠也君は、音だけを頼りにボールを追う視覚障害者のための野球・グラウンドソフトボールの選手。しかし、ここ数年、聴力も低下している。グラウンドソフトの主将としてチームを率い、さらに将来のために、あん摩・マッサージ・はりの勉強に励む姿を追う。(黒澤悠也)	15
●	●	DA2018-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 離れていても助けたい ～熊本地震ITを使った支援～	熊本を襲った大地震で被災した聞こえない人は、避難所で健聴者とうまくコミュニケーションできず避難所を離れた人もいる。その教訓を踏まえ、今、電話リレーサービスをはじめ、ろう難聴者に役立つサイトができていく。(佐藤万美)	15
●		DA2018-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 壁があるから心がひらく ろう者が営む喫茶店	ろう学校卒業後、調理師の学校で資格をとった尾中幸恵さん。しかしコミュニケーションができないからと、なかなか就職できなかった。そんな尾中さんに43歳の時、喫茶店経営のチャンスが訪れた。経営も軌道に乗り、今後はソムリエの資格にも挑戦するという。(尾中幸恵)	15
●		DA2018-020	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 心ひとつに ～ろうの教師と聞こえる生徒たちの合唱～	長野県の間宮にある松本市立大野川中学校。ここで、ろうの教師・篠原雅哉さんが聞こえる生徒に教えている。10月、篠原さんのクラスは文化祭で合唱を披露することになり、篠原さんは指揮者を務める。聞こえない先生と聞こえる生徒と一緒に合唱に挑む姿を追う。(篠原雅哉)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2018-021	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 奄美の海でカツオ一本釣り	山下浩一さん(51歳)は祖父の代から漁師をしている。聞こえないハンデを乗り越え、聞こえる人と対等に仕事をしている。「海では目の力が重要」と語る山下さん。漁師として誇りを持って生きる山下さんの日々を追う。(山下浩一)	15
		DA2018-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえないリーダーの挑戦 ～国際大会を成功に導くために～	アジア太平洋デフバスケットボールクラブ選手権大会が11月に日本で初めて開催された。この大会の実行委員長を務める穂満圭太さん(33歳)。穂満さんは外国人選手とのコミュニケーションやボランティアのとりまとめなどの重責を担う。日本で初めて行われるデフバスケの国際大会の成功を目指す穂満さんの奮闘を追う。(穂満圭太)	15
		DA2018-023	B-3	ろうを生きる難聴を生きる もう一度学びたい ～ろう者が通う日本語教室～	愛知県名古屋で、手話を使って、ろう者に日本語を教えるキム・ナムユンさん。生徒は皆、仕事や育児をこなしてきた日本人女性。今なぜ日本語を学ぶのか、キムさんとキムさんの教室に通う女性たちを追う。(キム・ナムユン/高井玲子)	15
		DA2018-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 挑めば可能性が広がる 弁護士 久保陽奈	重度の難聴のある弁護士・久保陽奈さん。民事事件を担当し現在おおよそ40の案件を抱えている。依頼者とは、さまざまなツールを使って打ち合わせをしている。依頼人の思いに応えたい。そのために自ら動き工夫し信念を持って進む久保さんを追う。(久保陽奈)	15
		DA2018-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 一人前を目指して ～釧路の左官職人～	コテ1本で壁を仕上げる左官職人。一人前になるまでに5年から10年かかる。左官の世界で修業をつんでいるろう者・内藤秀之さん27歳。ろう学校の先輩や親方の指導の下、一人前の左官職人になるために励んでいる姿を追う。(内藤秀之・柏木洋平)	15
		DA2018-026	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえなくても踊れるよ ～ろうのダンスインストラクター～	切れのいいパフォーマンスを繰り広げるダンスユニット「ネクバソ」。ダンサーは全員がろう者。メンバーの1人emiこと平野恵美さん35歳。ダンスの魅力を伝えたいと、ろうの子どもたちにダンスを教える。ろうのダンスインストラクターemiさんの日々を追う。(平野恵美)	15
		DA2018-027	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 僕の音楽は難聴とともに 宇崎竜童	歌手としてヒットを飛ばした宇崎竜童さん71歳。宇崎さんは妻の阿木耀子さんとコンビで作曲家としても活躍している。しかし、宇崎さんは30代のころから両耳の難聴に悩んでいる。30年以上にわたり難聴に向き合ってきた苦悩と音楽への思いを聞く。(宇崎竜童山田賢治)	15
		DA2018-028	B-3	ろうを生きる難聴を生きる みんなで一緒に舞台を楽しみたい	聴覚障害のある観客向けに、セリフを字幕で見せるサービスがある。演技にあわせてスタッフがパソコンのキーをたたくと、モバイル端末にセリフが表示されるというものだ。聴覚に障害があっても、聞こえる人と一緒に演劇を楽しめるこのサービスを提供するのはTA-net。代表の廣川麻子さんとスタッフの活動を紹介する。(廣川麻子・TA-netのメンバー)	15
		DA2018-029	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢のゴールへ突き進め！ サッカー選手 西大輔	アマチュアトップリーグのサッカーの最高峰に挑む、西大輔さん18歳。2歳のときに感音性難聴と診断された。JFLのヴェルスバ大分に所属し、聴覚に障害があっても夢や希望を与えられる選手になりたいという西さん。試練を乗り越え、新たな一歩を踏み出す奮闘の日々を追う。(西大輔・ヴェルスバ大分)	15
		DA2018-030	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 盲ろう者たちの家 ～日本初の専用グループホーム～	大阪市で活動する「NPO法人すまいる」が日本で初めて視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう者専用施設を開設した。このホームに入居を決めた金磯康平さん46歳。康平さんと康平さんの家族の思いを伺う。(金磯康平・棚瀬恒二)	15
		DA2018-031	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 美術館をもっと楽しもう！	多くの美術館には音声ガイドがあるが聴覚障害者には使えない。学芸員の解説を手話通訳士が伝える鑑賞ツアーを立ちあげた西岡克浩さん。西岡さんは障害の有無、年齢に関係なく美術館を訪れ、美術をきっかけに自分の世界を広げてほしいと語る。(西岡克浩・中野淳)	15
		DA2018-037	A-3	ETV特集 亜由未が教えてくれたこと	NHK青森のディレクター坂川裕野さんの妹・亜由未さんは脳性マヒと知的障害を持つ重度障害者だ。相模原市で起きた障害者殺傷事件をきっかけに、「障害者の家族は不幸ではない」と伝えるため、坂川さんは亜由未さんの暮らしを撮影することにする。そして今まで両親に任せていた亜由未さんの介助を1か月間試してみること。両親の苦労、亜由未さんの双子の妹の思い…。重度障害者とともに暮らす家族の姿を描く。(坂川裕野・坂川亜由未)	60
		DA2018-038	A-3	ハートネットTV WEB運動企画 “チエノバ” これだけは知ってほしい！聴覚障害の悩み	聴覚障害者といっても、全く聞こえない人から補聴器で少し聞こえる人、生まれつき聞こえない人、途中で聞こえなくなった人などさまざま。しかし聴力に違いはあっても、日常生活で不便を感じることに共通点は多い。番組では視聴者から寄せられた意見を紹介しながら、聴覚障害者の抱える悩みについて、ろう者のゲストと共に考えていく。(善岡修・久保純子・荻上チキ)	29
		DA2019-001	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ろうにハレルヤ！ ～牧師 郡美矢～	ろう者として生まれ、ろう者として生きてきた郡美矢(こおりみや)さんは牧師として人々の悩みや苦しみに寄り添っている。「ろうは神から与えられた個性」「ろう者に、誇りを持って生きていくことを伝えたい」と語る郡さんの奮闘する日々を追う。(郡美矢)	15
		DA2019-002	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない自分 だからこそできる ラグビー教室	聴覚障害者のラグビー、デフラグビー日本代表チームのエース大塚貴之さんは、大学ラグビーの強豪校に所属し公式戦にも出場した経験を持つ。現在、大塚さんが取り組んでいるのは、ラグビーを通して、聞こえない子どもたちに、聞こえないからこそできることがあることを伝えること。夢に向かって歩き始めた大塚さんの姿を見つめる。(大塚貴之)	15
		DA2019-003	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 映画を通してろうの世界を伝えたい	ろう者が描かれた映画やドキュメンタリー作品を上映する東京ろう映画祭。この映画祭を立ち上げたのは、ろう者の牧原依里(まきはらえり)さん。映画を通して、ろう者の文化を伝えたいと願う牧原さんの、映画祭開催までの日々を追う。(牧原依里)	15
		DA2019-004	B-3	ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック特集 バレーボール 狩野拓也	4年に1度開かれる聴覚障害者のスポーツの祭典デフリンピック。バレーボール男子日本代表のキャプテンは難聴者の狩野拓也さん。前大会では予選で敗退した日本チーム。勝利のためにチームをまとめる狩野さんの姿を追う。(狩野拓也)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
		DA2019-005	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 人とのふれあいが仕事の原動力	視覚と聴覚に障害のある盲ろう者の岡田昌也さん。岡田さんは福祉作業所で仕事をしている。ハンディを感じさせない岡田さんの働きぶりは、施設職員を驚かせるだけでなく、施設の外からも仕事の依頼があるほどだ。人々のふれ合いながら働く岡田さんの姿を見つめる。(岡田昌也)	15
		DA2019-006	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 絵日記が育む 家族のこぼれ	2017年に出版された「宿題の絵日記帳」が話題を呼んでいる。主人公は難聴の少女で、日記には少女で、日記には少女のささいな毎日が描かれている。実は絵日記は難聴者の子どものこぼれを育むために使われてきた。絵日記はどのように難聴の子どものこぼれを育むのか、家族の日常を見つめる。(今井信吾)	15
		DA2019-007	B-3	ろうを生きる難聴を生きる プロの料理人を目指して ～調理師免許が取れるろう学校～	全国で唯一、調理師免許が取れるろう学校・都立葛飾ろう学校。生徒たちは、料理の腕とアイデアを競う料理の全国コンテストに出場し、1位を目指す。いよいよコンテスト同日。果たして結果は…。(東京都葛飾ろう学校高等部の皆さん)	15
		DA2019-008	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえないキックボクサーの挑戦 郷州征宣	難聴のキックボクサー郷州征宣(ごうしゅうまさのぶ)選手は、聞こえる選手の中で戦い、チャンピオンになることを目指している。そんな郷州選手が念願のタイトルマッチに挑戦することになった。聞こえなくても夢をあきらめない郷州先週の姿を見つめる。(郷州征宣)	15
		DA2019-009	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ドミニカに届ける未来 廣瀬芽里	カリブ海の島国ドミニカ共和国。音楽と踊りを愛するこの国で、ろう学校の教師をしている廣瀬芽里(ひろせめり)さん。この国で廣瀬さんが目にしたのは、十分な教育を受けられず仕事に就けないろう者の現実だった。廣瀬さんのドミニカでの聴覚障害者支援の活動を追う。(廣瀬芽里)	15
		DA2019-010	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない自分 法律施行から間もなく2年 見えてきた変化と課題	平成28年、障害者差別解消法および改正障害者雇用促進法が施行された。施行されてから障害者の状況は変わったのだろうか。番組では聴覚障害者にアンケートを実施し、実例から法律のポイントを改めて考える。(田門浩・中野淳)	15
		DA2019-011	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない母と 聞こえる母が集う場	聞こえないお母さんと聞こえるお母さんが月に2回、障害の有無を越えて集まり、子育ての悩みを話し合う会がある。この回を立ち上げたのは、4人の子育てるろう者の松本茉莉(まつもとまつり)さん。母親たちの居場所を築こうとする松本さんの日々を見つめる。(松本茉莉・樽谷香)	15
		DA2019-012	B-3	ろうを生きる難聴を生きる ろうの映画監督 音のある世界を撮る	ろうの映画監督、今井ミカさん。今井さんはろう者にに向けた無音の映画を作り続けてきた。しかし、今回初めて、聴者にも楽しんでもらえる映画を作るために、映画に音を付けることを決めた。目指すのは、ろう者と聴者の壁を取り払うこと。今井さんの映画製作現場に密着する。(今井ミカ・湯越慶太)	15
		DA2019-013	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 音が見える空手道大会	聴覚障害者が聴者と対等に戦えるようにさまざまな工夫が施された、国内初となる「音が見える空手道大会」が開催された。主催したのは、ろうの空手道指導者・高橋朋子さん。聞こえない空手家があんな大会にも出場できる日を目指して、高橋さんの挑戦は始まったばかりだ。(高橋朋子)	15
		DA2019-014	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢に向かって勉強しよう～開校まもない 学習塾の挑戦～	2017年9月、聞こえない・聞こえにくい子どもたちを対象にした学習塾が大阪で開校。未就学児から高校生まで約30人が通う。指導スタッフの平均年齢は26歳。手話や指文字を使っての授業や見て覚えやすい教材を使うなどの工夫をしている。「子どもの良いところを褒めること」を大切に奮闘している。	15
		DA2019-015	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢はプロのパレリーナ	東北地方で開かれたパレエコンクールで1位に輝いたのは聴覚に障害がある小学5年生の菊池海麗(みらい)さん。単純なピアノのメロディは人工内耳で聞き取ることができるが、複雑なリズムの音楽が苦手だ。大きなコンクールに向けてリズムの複雑な課題曲に取り組む海麗さんと家族やパレエ講師の姿を追う。(菊池海麗)	15
		DA2019-016	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢に向かって発進 ろうのバス運転士	都内を走る一台のリムジンバスの運転席でハンドルを握るのは、ろう者として全国初のバス運転士になった松山建也さん。2016年に法律が改正され、ろう者でも一定の条件を満たせば、バスの運転に必要な免許を取ることができるようになった。ろうのバス運転士の道を切り開いていく松山さんを追った。(松山建也)	15
		DA2019-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる もっと速くもっと強く 陸上100m 佐々木琢磨	2020年の東京五輪出場を目指す陸上100mの佐々木琢磨選手。2017年のデフリンピックでは日本初の金メダルを獲得。ろう者の中で、オリンピックに出場する可能性が一番高いと言われている。聴覚に障害のある後藤佑季リポーターが陸上部に所属した経験から話を聞く。(佐々木琢磨・後藤佑季)	15
		DA2019-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 豊かな老後を支える住まいを目指して 全国初 サービス付き高齢者向け住宅	札幌市にオープンしたサービス付き高齢者向け住宅「ほほえみの郷」。聴覚障害者向けの自立生活を支えるサービス付き高齢者向け住宅(サ高住・さこうじゅう)としては全国初。手話のできる看護師や介護福祉士が、ひとりひとりの生活背景に添ったきめ細かな対応で生活を支えている。さまざまな困りごとを支えるための取り組みを見つめる。	15
		DA2019-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる どこかに仲間が…いるよ！ ～性的マイ ノリティーのろう者 菊川れん～	「ろうの性的マイノリティーである自分に、仲間や居場所は見つかるのか」と生きづらさを1人で抱えてきたという菊川れんさん。同じ立場の仲間とつながり支え合いたいという思いから、手話講師として働くかわら「ダブルマイノリティー」への理解を広げるための活動を続けている。(菊川れん)	15
		DA2019-020	B-3	ろうを生きる難聴を生きる “教育”で盲ろう者の可能性を広げたい ～ヘレン・ケラー没後50年に語る～	日本の障害者福祉に大きな影響を与えたヘレン・ケラーが亡くなって50年。障害者の教育分野は進歩したが、ヘレン自身がそうであったように盲ろう者への教育は多くの困難があり、今も十分に整備されていない。国内で唯一盲ろう児の教育を専門に行う横浜訓盲学院の学院長・中澤恵江さんに話を聞く。(中澤恵江・中野淳)	15
		DA2019-021	B-3	ろうを生きる難聴を生きる どうする？聞こえない学生への手話通訳 支援	この10年で、大学などに通う聴覚障害のある学生の数は1.4倍に増加。しかし高度な内容を手話通訳できる人材が不足している。こうした課題に対して群馬大学では学生を手話通訳者の卵として育てる授業を新設、大阪大学では手話通訳者を対象にしたスキルアップセミナーを開催した。聞こえない学生の学びを支えるにはどうすれば良いのか考える。(白澤麻弓)	15
		DA2019-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 故郷の手話を守りたい ～愛媛県・宮窪 町～	瀬戸内海に浮かぶ愛媛県・大島の宮窪町に、聞こえる人もろう者も関係なく、手話で会話してきた珍しい地域がある。この手話は他の地域にはない独自のもので、国際的にも注目されている。しかし近年、使い手が激減。故郷の手話を守ろうと奮闘する地元出身のろう者矢野羽衣子さんの活動を追った。(矢野羽衣子)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2019-023	B-3	バリバラ 聴覚障害の家族 コミュニケーション	今回は、聴覚障害のある人と家族の関係にスポットをあてる。聞こえない子どもと聞こえる親。逆に聞こえない親と聞こえる子ども。どうコミュニケーションをとり、どのように子育てをすればいいのか、と悩む親たち。幼児向け手話教室を訪れた2家族をゲストに、コミュニケーションのあり方を考える。(IVAN・山本シュウ・大西瞳・玉木幸則)	29
		DA2019-024	B-3	バリバラ 耳が聞こえない人にとっての音楽について考える	「耳が聞こえない人が楽しめる音楽」はつくれるのか？歌やコトを通して手話を広める活動をしているoioi(オイオイ)の耳が聞こえないメンバー「のぶ」と「りょーじ」の2人がこの難題に挑む。どうやったら視覚的に音楽を楽しむことができるのか。耳が聞こえない人と音楽について考える。(西村知美・河崎佳子・山本シュウ・大西瞳・玉木幸則)	29
●		DA2019-025	B-3	ハートネットTV 故郷の言葉を守りたい～日本の“消滅危機言語”～	世界中で多くの言葉が消滅の危機に瀕している。日本学術会議での報告では、話し言葉だけではなくろう者にとっての言語である手話も同じ危険性があるという。瀬戸内海に浮かぶ愛媛県大島の漁師町で使われている宮達手話や鹿児島県沖永良部島で話されている方言など、故郷の言葉を守る人々の取り組みと言語の未来について考える。(木部暢子・中野淳)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:野口岳史	29
●		DA2019-026	B-3	ハートネットTV 日本の「盲ろう者」その歴史と未来 ヘレン・ケラー 没後50年に福島智が語る～	87歳で亡くなったヘレン・ケラーは生前三度来日し、日本の障害者福祉の発展に大きな影響を与えた。日本では1991年に全国盲ろう者協会が設立されたが、まだ支援は十分とはいえない。盲ろう者として日本で初めて大学に進学し、東京大学教授を務める福島智さんと、横浜訓盲学院の中澤恵江学院長をゲストに迎え、盲ろう者の歴史と未来について考える。(福島智・中澤恵江・中野淳・春野もこ)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:荒井美香	29
●	●	DA2019-028	A-3	ETV特集 静かで、にぎやかな世界～手話で生きることもたち～	東京都品川区にある私立明晴学園は、聞こえない聞こえにくい子どもたちが、手話で学ぶ学校。そこでは授業も休み時間の会話も子どもたちの大事な会議も、すべて手話が飛び交い実際ににぎやかだ。番組では、ろう者として手話とともにのびのびと生きる子どもたちの姿と、大学で「聴者の社会」に直面する卒業生の姿を追う。(明晴学園のみなさん)	59
●	●	DA2019-029	A-3	ハートネットTV シリーズ 認知症 当事者とつくる新時代 第1回 絶望から権利へ	2017年4月に京都で開かれた認知症についての世界最大の国際会議。この会議に大きな影響を与えてきたのが、認知症当事者のクリスティーンだ。彼女は当事者として、公の舞台で自分の考えを語り、認知症への見方を変えてきたことで有名だ。そして今、日本でも当事者が声を上げ始めている。(クリスティーン・ブライデン)	29
●	●	DA2019-030	A-3	ハートネットTV シリーズ 認知症 当事者とつくる新時代 第2回 パートナーと見つけた希望	丹野智文さんは39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された。今、認知症への見方を変えようと、各地を飛び回る丹野さんの傍らには、活動を手伝うために常同行く人がいる。家族でもない、介護者でもない「仲間(パートナー)」。希望を探して歩む丹野さんと仲間たちの記録。(丹野智文・若生栄子・山崎英樹)	29
●	●	DA2019-031	A-3	ハートネットTV シリーズ “ゲーム障害”LIVE相談 治療と対策	オンラインゲームなどに熱中し生活に支障をきたす症状を「ゲーム障害」という。WHO(世界保健機関)は新たな病気として国際疾病分類に加える見通しだ。当事者や家族の悩み、疑問、体験談を募集し生放送で相談に応える。治療の現場を紹介しながら、対策や予防について考える。(樋口進・遠藤美季・江上敬一・中野淳)	29
●	●	DA2019-032	A-3	ハートネットTV シリーズ 平成のがのこした「宿題」「災害弱者」	平成の30年間で阪神・淡路大震災、東日本大震災など数多くの災害が起きたが、避難や復興から取り残される高齢者や障害者など「災害弱者」が顕在化した。国は自治体に対して「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を示したが縦割り行政の中では思うように進まない。悲劇を繰り返す社会の課題とその解決の端緒を探る。(福永年久・東俊裕・中野淳)	29
●	●	DA2020-001	A-3	ハートネットTV NHKハート展 手話・ままでのめ	障害のある人がつづった誌に、著名人が作品を寄せるNHKハート展。知的障害を伴う自閉症のある岩元優真さん(14)にとって、誌は周囲の人に自分の言葉を伝えられる数少ない機会。二人三脚で奮闘する母との日常を独特の表現で描く。聴覚障害のある駿河富子さん(68)は、幼いころ言葉に傷つき、誌を書く中で自らの人生を取り戻してきた。誌に込められたそれぞれの人生を見つめる。(白鳥久美子・中野淳)	29
●	●	DA2020-002	A-3	ハートネットTV 亜由未が教えてくれたこと 2019	障害者と暮らす家族の本音、共に生きる幸せとは何か。3年前の相模原障害者殺傷事件を機に、重度の障害者の妹・亜由未さんにカメラを向けるNHKディレクターの記録。この夏、2年ぶりに亜由未さんと向き合う。妹の症状や環境の変化、介助する親の老いなど、多くの問題を目のあたりにしながら、家族とは何かを模索する。	29
●		DA2020-004	B-3	ハートネットTV シリーズ もう一人の演者～舞台手話通訳 米内山陽子さん～	演劇の作品内容を手話で伝える舞台手話通訳者。俳優のセリフ、演技、音楽など舞台上で起きる全てを1人で手話で表現して伝えるのが役割だ。聞こえる人、聞こえない人が共に演劇を楽しむために奮闘する、第一人者の米内山陽子さんの挑戦を追う。(米内山陽子)	29
●	●	DA2020-010	B-3	バリバラ バリバリ進路相談室	障害や病気があって進路に悩む3人の相談者にバリバラメンバーが答えしていく。1人目は発達障害がある中学2年生。本にかかわる仕事が見たいが、勉強ができない環境に悩んでいる。2人目は視覚過敏や脊髄の病気で何もできないと悩む高校1年生。3人目は聴覚障害で人工内耳を付けている大学4年生。児童養護施設の職員になる夢があるが、聞こえない自分は子どもの負担になるのではないかと悩んでいる。(山本シュウ・大西瞳・玉木幸則・桂福点・ジミー大西(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:森田明)	29
●	●	DA2020-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 異言語脱出ゲームに挑戦セヨ!	聞こえる人と聞こえない人が力を合わせて謎をクリアしていく「異言語脱出ゲーム」。ゲームを作っている「異言語Lab.(いげんごラボ)」代表の菊永ふみさんはろう者だ。自身も経験した、ろう者や難聴者を取り巻くコミュニケーションの壁。ゲームを通してコミュニケーション方法はいろいろあることを分かってもらい、きちんと向き合うことでいろいろな人が関わり合える機会をたくさん作りたいと語る。人とつながりたい気持ちが菊永さんを突き動かす。菊永さんと仲間たちの挑戦を追った。(菊永ふみ)	15
		DA2020-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 皆で楽しもう! 全力応援・2020	2020東京オリンピック・パラリンピックを、聞こえない人も聞こえる人と一緒に楽しむための特集。陸上・円盤投げの日本記録保持者である湯上剛輝選手ら、オリンピック出場を期待されるデファスリートを紹介する。その他、大会のボランティアや、将来もっと多くのデファスリートたちが活躍するための指導者の育成など、聞こえない人たちの最新の取り組みを追った。(佐々木琢磨・湯上剛輝・伊賀崎俊・後藤佑季)	15
		DA2020-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 一緒に山を楽しもう!	登山を楽しむ聴覚障害者が増えている。しかし聞こえないために必要な情報を事前に得られなかったり、とっさの危険を察知できず事故にあうケースも出ている。手話通訳士の細井裕子さんは、登山の経験を生かし聴覚障害者向けの登山講座を開催している。聞こえなくても山を楽しみたい!聴覚障害者たちとそれをサポートする人たちの姿を追う。(細井裕子)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA2020-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる いざ水中世界へ！～ダイビングスクールの挑戦～	ダイビングを始めるには講習を受ける必要がある。講習内容は難しい用語も多く、聴覚障害者の大きな壁になっていた。イラスト作家の杉本聖奈(まりな)さんは、シュノーケリングを体験して以来、海の魅力に引き込まれる。聴覚障害者を受け入れてくれるダイビングスクールが少ない中、神奈川県葉山町の手話による講習を行うダイビングスクールで、水中世界を目指す姿を追った。(関田昌広・杉本聖奈)	15
		DA2020-025	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話で楽しむみんなのテレビ！～手話放送プロジェクト～	NHKの人気番組に手話をつけて放送する手話放送プロジェクト。ニュースや福祉番組を除いて、これまでになかった試み。エンターテインメントとして楽しめるよう、さまざまな演出にチャレンジするプロジェクトの裏側を紹介する。(渡辺直美・壇蜜・廣川麻子・長嶋愛)	15
		DA2020-026	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 農業×旅行者＝ワンダフルライフ！～屋久島・ゲストハウスの夏～	日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島。この地でゲストハウスを営むろう者の中村一郎さん。ここでは長期滞在の外国人旅行者に農作業を手伝ってもらっている。言葉が違っても豊かにつながりあえるゲストハウスのひと夏を紹介する。(中村一郎)	15
●		DA2020-027	B-3	守ちゃんとしえちゃん 二人のかまぼこ板日記	愛媛県西大洲のおしゃれスポット菊池理容室の店主・守(もり)ちゃんと、その妻よしえちゃん。難聴の守ちゃんは理容師歴54年の大ベテラン。よしえちゃんの趣味はかまぼこ板に絵を描くことだ。2人の暮らしはのんびり、焦らず、いろいろと大変なこともある人生だけど、笑顔で頑張っている。難聴の夫と明るい妻の暮らしを追ったドキュメンタリー。(菊池守芳・菊池禧江)	45
●	●	DA2020-028	A-3	ハートネットTV 手話で楽しむ みんなのテレビ！ ～おはなしのくに編～	ハートネットTVでは、今回「おはなしのくに」2作に手話をつけて放送。渡辺直美さんふんする「きんたろう」と熊の相撲対決は、手話でどう表現されるのか。壇蜜さん出演の「つるのおんがえし」で、鶴の鳴き声や機械織りの音はどう手話になるのか。聞こえない人も、聞こえる人もみんなで見てほしい、NHK初の手話エンターテイメント番組。(渡辺直美、壇蜜・馬場博史・山岸侑子・竹村祐樹)	29
●	●	DA2020-029	A-3	ハートネットTV 手話で楽しむ みんなのテレビ！ ～ドキュメント72時間編～	「いろんな番組を手話で楽しみたい」という、ろう者・難聴者の声から、NHK初の手話エンターテイメントに「ハートネットTV」が挑戦。今回は、「ドキュメント72時間～海が見える老人ホーム～」に手話をつけて放送。吹石一恵さんのナレーションや、人々の人生が垣間見える一言はどう表現されるのか？シンガーソングライター・松崎ナオさんが歌う72時間テーマ曲「川べりの家」と、手話パフォーマーのコラボレーションも！(江副悟史・佐沢静枝・寺澤英弥・後藤祐季)	29
●	●	DA2020-030	A-3	ハートネットTV 手話で楽しむ みんなのテレビ！ ～昔話法廷編～	NHKの人気番組に手話がつく「手話で楽しむみんなのテレビ！」。今回は、Eテレで話題となったドラマ「昔話法廷」に手話をつけて放送。「さるかに合戦」をモチーフに、カニの親子を殺した猿が法廷で裁かれる。死刑を求めるカニの子ども、涙声で謝罪する猿のセリフを、ろう者たちが手話で表現する。NHK初の手話つきドラマ、果たしてその仕上がりがいかにか？手話のできる芸人・河本準一・小林聡美・小澤征悦・今井彰人・数見陽子・高島良宏・竹村祐樹)	29
●	●	DA2020-031	A-3	ハートネットTV 手話で楽しむ みんなのテレビ！ ～サンドのお風呂いただきます編～	NHKの人気番組に手話がつく「手話で楽しむみんなのテレビ！」。今回は、サンドウィッチマンが各地の家庭風呂をいただきながら人々と触れ合う、湯けむり人情バラエティー「サンドのお風呂いただきます」。会話のテンポが速く、音楽も効果音も盛りだくさん。にぎやかだから面白いバラエティーを、どうやって手話で表現する？新たな魅力を帯びた「サンドのお風呂いただきます」をお届け！(砂田アトム・中川恵美・サンドウィッチマン・カミナリ・江副悟史)	29
●	●	DA2021-001	A-3	文字の獲得は光の獲得でした 作家 柳田邦男が読む いのちの手記	NHKとNHK厚生文化事業団が主催する「NHK障害福祉賞」には、身体障害や精神障害などと向き合う人たちが半世紀にわたり1万3千以上の手記が寄せられてきた。長年、この賞の選考委員をつとめた作家 柳田邦男さんは、それを「人間理解の宝庫」という。そこには苦悩や偏見を乗り越え人生を切り開いてきた人々の真実の言葉がある。番組では柳田さんとともに過去の受賞者4人を訪ねる。人生に立ちほだかる壁を「文字で表現すること」を通して乗り越えてきた人々の体験から、私たちは何をくみとることができるのか。(柳田邦男・夏子)	49
●		DA2021-002	B-3	ハートネットTV 晋平太と挑む！ “手話×ラップ”プロジェクト	世界的なラッパーのステージで活躍する手話通訳者がいる。フィンランドでは手話による巧みなラップで世界中に衝撃を与えた耳の聞こえないラッパー・サインマークがメジャーデビューした。そして日本で聞こえない人にラップを届けたいと考えたのがラッパーの晋平太だ。晋平太と共にプロジェクトに参加するのは、ラップ初挑戦の聞こえない女子学生2人。聞こえない2人が持つ強いメッセージを自分たちにしかできないやり方で表現する。2か月にわたる『手話×ラップ プロジェクト』に密着。(晋平太／原島朋花／樺澤環)	29
●		DA2021-003	B-3	ハートネットTV 異言語脱出ゲームonTV 謎の館から脱出せよ！	まったく新しいタイプの体感謎解きゲーム「異言語脱出ゲーム」。耳が聞こえないろう者4人と聞こえるタレント4人のチャレンジャーが、手話や音声を使った謎がちりばめられた館から協力して脱出する。手話や音声を使った謎に視聴者もチャレンジできる。チャレンジャーは脱出できるのか。(奥野社／森七菜／井上咲楽／高野洸／山田真樹／仲菜摘／松本拓也／中川恵美)	29
●		DA2021-013	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 長い沈黙のあとで ～ろう者たちの強制不妊手術～	戦後まもない1948年に作られた旧優生保護法では、障害者への強制不妊手術が認められていた。調査により70人の聴覚障害者も不妊手術や中絶を強制されていた可能性があることが分かった。当事者たちが語る経験から、強制不妊手術の実態に迫る。(大竹浩司／勝楽佐代子／大矢蓮)	15
		DA2021-014	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない患者に安心を！	聞こえない患者は診察の際に、筆談だけでは難しい用語が十分に理解できないことが多い。ろう者で自身も乳がん患者の川渕一江さんは、闘病をきっかけに医療関係者と一緒に手話表現の勉強会を開いて、聞こえない患者への支援をしている。誰もが安心して医療を受けられるために活動する川渕さんを追った。(川渕一江)	15
		DA2021-015	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 一緒に舞台で輝こう！ ～聞こえない子と聞こえる子の 手話ミュージカル～	聞こえない子どもと聞こえる子ども28人が、力を合わせて挑む手話ミュージカル。せりふはすべて手話で表現する。子どもたちを指導する平井知加子さんは、芝居を通して学んだ表情や身ぶりが、これからの役立つだろうと言う。公演に向けて奮闘する子どもたちの姿を追った。(平井知加子／岩田京華／田中琉絆)	15
		DA2021-016	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 異言語脱出ゲームonTV 謎の館から脱出せよ！	ろう者4人と聞こえるタレント4人のチャレンジャーが、手話や音声を使った謎がちりばめられた館から、協力して脱出する異言語脱出ゲーム。手話で分からない、声が聞こえない状況でどうコミュニケーションするのか？言葉の壁を乗り越えて脱出できるのか？ DA2021-003「ハートネットTV 異言語脱出ゲームonTV 謎の館から脱出せよ！」の続編。(奥野社／森七菜／井上咲楽／高野洸／山田真樹／仲菜摘／松本拓也／中川恵美)	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●	●	DA2021-017	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 一緒に舞台で輝こう！ ～子どもたちの手話ミュージカル 完結編～	すべてのせりふを手話で演じるミュージカル「オズの魔法使い」。聞こえない子どもと聞こえる子ども28人が一緒に力を合わせて舞台に挑む。半年間にわたる子どもたちの成長と公演までの様子を追った完結編。(平井知加子/岩田京華/田中琉絆)	15
		DA2021-018	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 夢はプロのバレリーナ2	聴覚に障害があり、両耳に人工内耳を着けてクラシックバレエを踊る菊池海麗(みらい)さん。今回、演奏者や指揮者によって微妙にテンポが変わる生演奏に合わせて踊ることになった。演奏者たちと呼吸を合わせて踊れるのか。本番に挑む様子を追った。(菊池海麗)	15
		DA2021-019	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 静かな柔道クラブの挑戦 ～強くなれ！聞こえない子どもたち～	聞こえない子どもたちに手話で柔道を教えている東京都北区の柔道クラブ。指導者は聞こえる柔道家で指導歴は23年になる。心技体を鍛える柔道で心も体も大きくなってほしいと考えている。年に1度の大きな大会に向けて、聞こえない子に対して的確に指示を伝えられる「秘策」を特訓して挑む。(堀資雄/岡本記代子/荒谷太智/劉星智)	15
		DA2021-020	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 外国人ろう者と社会を つなげる架け橋に！	日本で暮らす外国人ろう者のために奔走するアメリカ人、ベギー・ブロッサーさんは自身もろう者だ。日本で暮らして30年近くになるが困ることはまだまだ多いと言う。欧米では外国人ろう者が社会とつながる仕組みがあるが日本にはない。ベギーさんの活動を通して外国人ろう者の現状と課題を考える。(ベギー・ブロッサー)	15
		DA2021-021	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえないセンパイの課外授業 Vol.1君たちは何を持っているか 医師 狩野 拓也	さまざまな分野で活躍する聞こえないセンパイが、聞こえない学生の悩みを解決する。今回は難聴の医師であり、デフリンピックのバレーボール日本代表選手でもある狩野拓也さんが登場。患者の命を預かる医療の現場で培ったコツを伝授する。聞こえる人にも参考になるヒントが満載の授業の様子を届ける。(狩野拓也)	15
		DA2021-022	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 新型コロナウイルス ～ろう者・難聴者は今～	新型コロナウイルスにより、ろう・難聴者の生活にも大きな影響が出ている。マスク生活によりコミュニケーションがとりづらくなったり、ろう学校が休校となり手話で話ができる場がなくなったりと、その影響は大きい。番組ではろう・難聴者の現状を伝え、今できること、今後の対策などを伝える。(江副悟史)	15
		DA2021-023	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえないセンパイの課外授業 Vol.3“伝える力”が社会で生きる前編 弁護士 松田峻	さまざまな分野で活躍する聞こえないセンパイが、聞こえない学生の悩みを解決する。今回はろうの弁護士である松田峻さんが、母校である山形聖学校で授業を行う。コンビニでの買い物にチャレンジして失敗から学ぶことは？進路に不安を抱える後輩たちに、社会で活躍するためのスキルを伝授する。(松田峻)	15
		DA2021-024	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 聞こえないセンパイの課外授業 Vol.3“伝える力”が社会で生きる後編 弁護士 松田峻	ろうの弁護士・松田峻さんが行う授業の後編。伝える力を磨くための模擬裁判に挑戦する生徒たち。弁護士、検察官、裁判官と3つのチームに分かれて、それぞれの立場での主張をまとめて発表する。旧優生保護法の裁判に関わる松田さんからのメッセージとは。(松田峻)	15
●	●	DA2021-031	A-3	ハートネットTV #隣のアイさん 「これだけは知ってほしい！ “統合失調症”のこと」	さまざまなマイノリティのアイ(味方・理解者)を増やそうと始まった番組「#隣のアイさん」。第1回は統合失調症の人たちの「これだけは知ってほしい」に迫る。統合失調症の人たちの悩みや関係の作り方について、クイズを通じて理解を深める。(最上もが/荻上チキ・中野淳)	29
●	●	DA2021-032	A-3	ハートネットTV #隣のアイさん 「これだけは知ってほしい！ “摂食障害”のこと」	今回は、摂食障害への理解を深め、拒食や過食に悩む人たちの味方になることを目指す、隣のアイさん。摂食障害の原因は、体重コントロールのためのダイエットであると思われがちだが、単にその行為が問題だけでなく、その行為の奥にある精神的な問題も大きく関わっている。そのため、摂食障害を乗り越えるためには、周囲のサポートも欠かせない。正しい知識を持って、アイさんを目指そう。(最上もが/荻上チキ・中野淳)	29
●	●	DA2021-033	A-3	ハートネットTV #隣のアイさん 「これだけは知ってほしい！ “てんかん”のこと」	てんかんは100人に1人が発症するといわれる身近な疾患だが、発作の一種である「けいれん」のイメージから、強い偏見や過剰な配慮に悩みを抱えている人が多い。疾患の基礎知識や発作時にはどうすればいいのかなど、てんかんへの理解を深め、アイ(味方・理解者)を目指す。当事者の経験談からどのようなアイが求められているの考える。(最上もが/荻上チキ・中野淳)	29

DC. 記録報道(歴史)(DVD)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DC2007-001	A-3	壁を拓く、社会を開くⅡ —昭和50年代のろうあ運動—	昭和50年代のろうあ運動は「4本柱」運動と呼ばれる権利獲得運動が中心だった。その中の1つ「差別的な民法11条改正運動」について紹介する。内容は、実際に差別にあった聴覚障害者の証言、弁護士の立場から見た改正前の民法11条の問題点、全日本ろうあ連盟の当時の活動などを野澤克哉先生の解説と共に紹介する。(野澤克哉・馬屋原亜季・高田英一・山田裕明・黒崎信幸・黄田規子・土谷道子)	51
●		DC2008-003	A-3	壁を拓く、社会を開くⅢ 平成のろうあ運動	平成のろうあ運動の特徴は、それまでの聴覚障害者団体だけの運動と異なり、社会と共に運動する「社会連携型運動」であることが特徴としてあげられる。代表的な2つの運動、「民法969条改正運動」「欠格条項撤廃運動」について紹介する。旧民法969条や欠格条項が、どのような法律で、どこが問題となるのか。野澤氏や弁護士の田口氏に解説していただく。また、具体的にどのような活動を行ったのか、全日本ろうあ連盟の安藤理事長に当時から振り返りながら説明していただく。(野澤克哉・馬屋原亜季・安藤豊喜・田口哲朗・早瀬久美)	53
●		DC2009-004	A-3	壁を拓く、社会を開くⅣ ろう教育の歴史	欠格条項撤廃により、聴覚に障害があっても試験に合格すれば、医師や薬剤師の免許が交付されるようになった。しかし試験を受けることはできても、試験を受けるための教育方法については課題が残る。この作品では教育の中でも「ろう学校教育」に焦点を当て、ろう教育の歴史を伝える。(宇幕つき)(野澤克哉・浜田豊彦・馬屋原亜季)	35
●		DC2013-002	B-3	防災の日スペシャル 首都大震災 わ・ず・れ・な・い 3・11の警告	未曾有の被害をもたらした東日本大震災。あの日、東北では何が起きたのか。番組では震災時の貴重な映像をもとに、東日本大震災の被害を詳細に分析し、もし同じ規模の地震が首都圏を襲ったらどうなるのかを具体的に予測。どうやって大地震から身を守るか考える。(伊東四朗)	96

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DC2013-004	B-3	歴史秘話ヒストリア 新春激突！織田・徳川・武田 三大決戦 ～長篠の合戦 男たちは何を見た！？～	「エピソード1 信玄と戦いたくない！信長の弱気な接待作戦」ゴージャスな織物400枚に帯を300本に虎の皮にヒョウの皮、オーダメイドの服や帽子。戦国のカリスマ織田信長が武田信玄に贈ったプレゼント。信長にとって戦国最強軍団を率いる信玄は絶対敵にたくない相手だった。 「エピソード2 最強軍団は占いで生まれた？武田信玄若き日の苦悩」信玄は家臣のために祈ったり、ほうびを与えたり、温泉を用意して福利厚生を充実させたり…と家臣が気持ちよく働けるよう気を配り、その心をつかんでいた。 「エピソード3 激突！長篠の戦い 戦場に散った忠義の男たち」信長は最強武田を叩くため3000丁の鉄砲を準備、万全の手を打つ。信長の作戦はことごとく的中、勝頼の命も風前の灯火となったその時、信長に立ちほだかされたのが、命がけて主君を守ろうとする武田の男たちだった。(渡邊あゆみ)【字幕制作:とちぎ視聴覚障害者情報センター】	43
	●	DC2016-001	B-3	THE歴史列伝 ～そして傑作が生まれた～ スペシャル “天下分け目”関ヶ原の戦いスペシャル 第一部	関ヶ原の戦いは、今から400年以上前の1600年9月15日、東軍・徳川家康(7万)と西軍・石田三成(8万)が、関ヶ原で対決した天下分け目の一大決戦だ。 秀吉の死後、天下取りに向けて着々と布石を打った家康。その家康を許せなかった光成。この2人が、全国の武将たちを巻き込んで戦いへと突き進んでゆく。(本郷和人・仁志耕一郎・六平直政・佐藤渚)	46
		DC2016-002	B-3	THE歴史列伝 ～そして傑作が生まれた～ スペシャル “天下分け目”関ヶ原の戦いスペシャル 第二部	全国の名だたる武将を巻き込んだ関ヶ原の戦い。しかし決戦当日の戦いは、わずか6時間で決したという。なぜ、そのような結果になったのか？ 西軍8万が総崩れとなった、決戦当日の謀略と裏切りの数々に迫る。(本郷和人・仁志耕一郎・六平直政・佐藤渚)	46
	●	DC2016-003	B-3	THE歴史列伝 ～そして傑作が生まれた～ 戦国最強伝説 真田三代 前編	戦国の乱世において、日本一のつわものとして恐れられた真田幸村。もともとは小さな豪族だった真田が、歴史に名を残せたのはなぜか？ 幸隆、昌幸、幸村、親子三代の活躍を追う。(本郷和人・仁志耕一郎・六平直政・佐藤渚)	46
		DC2016-004	B-3	THE歴史列伝 ～そして傑作が生まれた～ 戦国最強伝説 真田三代 後編	日本一のつわものとして恐れられた真田幸村。戦国最後の決戦・大坂の陣で、徳川を相手にすさまじい戦いを繰り広げた。家康を恐怖に陥れた武勇は、やがて伝説となり、幸村は今に続く絶大な人気を得た。幸村の壮絶な生きざまを追う。(本郷和人・仁志耕一郎・六平直政・佐藤渚)	46

DD. 記録報道(人間関係)(DVD)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DD2007-009	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第1回 夜間中学校との出会い	屋間の学校が終わった夕方5時に年齢も生まれた国も違うさまざまな人が通う学校・夜間中学校。生徒は皆、屋間の中学に通えなかった人たち。その夜間中学で42年間、国語の教師として夜間中学一筋に教え続けた見城慶和さんに夜間中学との出会いを伺う。(見城慶和)	25
	●	DD2007-010	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第2回 生きる力を支える言葉	42年間、夜間中学校の教壇に立ち続けた見城慶和さん。夜間中学に通う生徒は時代と共に変わる。高度経済成長期は、終戦直後に中学に通えなかった人たちが大人になって夜間中学に入ることが多かった。その生徒たちの生きる力を支える「言葉」について伺う。(見城慶和)	25
	●	DD2007-011	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第3回 不登校の君へ	1975年ごろから屋間の学校に通えない不登校の生徒が、夜間中学校に増え始めていった。心によろいを着せて、誰も口をきかなかった生徒が、夜間中学で、みんなの前で初めて声を出して本を読むことができた。屋間の学校と夜間中学校はどこが違うのか。見城さんに夜間中学の教育力について伺う。(見城慶和)	25
	●	DD2007-012	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第4回 「鈍行列車」で行こう	42年間にわたる夜間中学校の教師生活で、見城慶和さんは2000人を超える卒業生を送り出した。そして、2003年3月、見城さんは定年を迎え教師生活を終えた。しかし夜間中学校を卒業しても、更に「学び」を求める人は多い。見城さんの「学び」に対する思いを伺う。(見城慶和)	25
	●	DD2010-006	B-3	情熱大陸 シェフ・パティシエ 長江 桂子	フランス・パリの三ツ星レストランでシェフ・パティシエを務める長江桂子(ながえいけいこ)さん。 お菓子の本場・パリでいま、最も注目を集めるパティシエだ。日本人らしい繊細さと周囲も驚く努力で、遅いスタート・女性・東洋人という3つのハンディを乗り越えた長江のデザートは2年前、有名三ツ星シェフであるミッシェル・トロワゴロの目に留まり、「オテル・ド・ランカスター」でシェフ・パティシエに抜擢された。自由で斬新なアイデアが評判の店だ。 なぜ彼女のデザートはフランス人を魅了するのか…。番組では秋の新作メニューの試作から完成まで取材、長江の発想法と同僚パティシエも舌を巻く高度な技術に迫る。(番組HP参照)	25
	●	DD2011-004	B-3	NHKスペシャル 働き盛りのがん	日本対がん協会の常務理事・関原健夫さんは大腸がんから肝臓や肺への転移を繰り返し、6回のがん手術を乗り越えて生き延びてきた。番組では関原さんのほかに、4名のがん患者を迎え、働き盛りの若い年齢でがんになり、闘病していくことの難しさや現実を語ってもらう。	89
	●	DD2011-007	B-3	生きる×2 第297回 写真に託すメッセージ	数々の写真コンクールで賞を受賞してきた鳥取聖学校写真部。鳥取聖学校で長年、生徒に写真を教えてきたのが高田啓一さんだ。「写真はコミュニケーション」と語る高田さんは、ろうの子どもたちに積極的に写真技術を教えてきた。そして退職後は、卒業生を振り続けている。	25
	●	DD2011-009	A-3	プロフェッショナル 仕事の流儀 涙も笑いも、力になる ～院内学級教師・副島賢和～	院内学級とは、病気やけがなどが理由で学校に通えない子どもたちのための病院内施設。 副島は、ここで勉強を教えると同時に、一つのことを大切にしている。子どもたちの不安や心配を解きほぐすことだ。「子どもを下から持ち上げる」「そうと、そばにいる」…。 番組は、日々子どもに寄り添う副島(そえじま)先生を追いながら、その極意を伝える。	48
	●	DD2012-005	B-3	情熱大陸 助産師 坂本フジエ	坂本フジエさん(87歳)は、日本最高齢の助産師である。手がけた出産は3915組。67年のキャリアと人柄にひかれて坂本の門をたたいた女性は多い。歳月に磨かれた坂本の言葉に励まされ、まるでわが家のようなぬくもりを感じるという。	25
	●	DD2012-006	B-3	情熱大陸 救命医 小林誠人	兵庫県立豊岡病院に勤務する救命医、小林誠人。人は彼を日本一忙しいフライトドクターと呼ぶ。彼の貴重な足となるのが、ドクターヘリだ。「1秒でも速く現場へ」「どんな患者も断らない」この信念を胸に、彼は救急救命の最前線を走り続ける。	25

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DD2012-009	B-3	新日曜美術館 シリーズ 創作の現場ドキュメント (1)写真家・石内都「ひろしま」との対話	鬼写真家・石内都。1979年、女性初の木村伊兵衛賞受賞、2005年にはヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表となるなど、日本の写真界の一端を走り続けてきた女性写真家だ。昨年、石内は新たな撮影に挑んだ。テーマは「広島」。広島平和記念資料館に保管されてきた、原爆で亡くなった人の遺品など、「被爆資料」にカメラを向けたのだ。焼けこげたワンピース、引きちぎられた上着…。どの品物にも空前の惨劇の傷跡が残る。石内は、一点一点に語りかけるようにシャッターを切りながら、原爆で断ち切られた人々の「その瞬間」以前に思いを寄せ、そこに刻まれた生命の痕跡を鮮やかに蘇らせていく。確かに人生を謳歌し、生きていた遺品のあるじたち。石内の写真の中で、被爆資料たちは、自らの刻印された人生を、愛を、静かに語り始める。これは、一人の写真家の一年半に渡る「広島」との対話の記録である。(石内都(写真家)・鷺田清一(哲学者・大阪大学総長))(NHK番組HPより抜粋)	45
●	●	DD2013-001	A-3	プロフェッショナル 仕事の流儀 闘う介護、覚悟の現場 介護福祉士 和田行男	日本全国で200万人を超えるといわれる認知症。その介護の世界に、新しい風を吹き込み続ける和田行男さん。介護の仕方によっては“普通”に生きる姿”を続けられると主張。認知症のお年寄りたちが家庭的な環境のもと、少人数で共同生活を送る「グループホーム」で、先駆的な取り組みを続けてきた。和田行男さんの施設では、お年寄りたちは、自分でできることは自分でするのがルール。けがや事故のリスクも常にある。それでも和田行男さんは、お年寄り1人1人の認知症の度合いや身体能力などを見極めながら、できる限り“普通の暮らし”を維持できるように奮闘し続ける。(和田行男)	48
●		DD2013-012	B-3	目撃者f 「どもってもいいんだよ」僕は吃音ドクターです	九州大学病院の耳鼻咽喉科で働く菊池医師は、自身も吃音があり、医師として同じ悩みを抱える人たちと向き合っている。吃音に悩み傷つき、そして乗り越えた経験を広く伝え、吃音への理解を深めてほしいと本を出版した。吃音がある人に寄り添う吃音ドクターを追った。	27
●	●	DD2013-019	A-3	プロフェッショナル 仕事の流儀 希望のリハビリ、ともに闘い抜く リハビリ医 酒向正春	リハビリの現実とは、決してなまやさしいものではない。脳卒中による後遺症を抱えた患者の中には、せん妄やうつ病など、精神的なダメージを負ってしまうケースが少なからずあり、それがリハビリを難しくする。しかしリハビリ医の酒向(さこう)は、どんなに困難なケースでも、最後の最後まで粘り抜く。リハビリには、患者の人生を取り戻すという大切な役割があると、信じているからだ。(酒向正春)(NHK HPより)	48
●		DD2014-005	B-3	プロフェッショナル 仕事の流儀 天職は、生涯かけて全うせよ うなぎ職人 金本兼次郎	金本兼次郎さんは江戸時代から続く老舗うなぎ屋の5代目。85歳になった今もちゅう房に立ち、弟子たちに技を伝えている。うなぎ職人として70年間、職人としての仕事と技を追求してきた金本兼次郎さんの姿を追う。(金本兼次郎)	48
●		DD2014-006	B-3	プロフェッショナル 仕事の流儀 「風立ちぬ」1000日の記録 宮崎駿スペシャル	長編アニメの製作から引退することを宣言した宮崎駿さん。その最後の作品となった「風立ちぬ」の製作現場に密着する。「風立ちぬ」は宮崎さん得意のファンタジーではなく、激動の時代をリアルに描く作品。ゼロ戦開発者を描くことへの批判、己の体力の衰え…さまざまな苦悩が立ちはだかる。企画から映画誕生の瞬間まで、そのすべてを記録した。(宮崎駿・鈴木敏夫)	73
		DD2015-004	B-3	目撃者f 棚田への思い消えず… ～九州北部豪雨から1年～	九州北部豪雨で大きな被害を受けた福岡県うきは市。日本の棚田百選にも選ばれたつづら棚田も被災した。農業を営む坂本昭市さんも、この豪雨で自宅と多くの田んぼを失った。一時は、田んぼをやめることも考えた坂本さんだが、棚田を通じて交流してきた人々とのふれあいを通じて、再び田んぼづくりに取り組む決意を新たにす。(坂本昭市)(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:高井洋	27
	●	DD2015-005	B-3	目撃者f 「戦後」いつまでも… ～戦争の記憶 次の世代へ～	「次の戦争が始まるまでが戦後。戦争さえ始まらなければ、ずっと『戦後』は続く――」この思いを胸に戦争のことを記録し、語り継ぐ人々がいる。かつて特攻隊の基地のあった大分県宇佐市に平和資料館がオープンした。資料館の誕生と運営には市民団体「豊の国宇佐市塾」が大きく貢献している。宇佐市塾は地元の文化や歴史の研究を続ける中で、近年、戦争をテーマにして、特攻隊の生き残りや遺族に戦争の話を書いて記録に残す活動などを行っている。(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:野口岳史	27
	●	DD2017-001	B-3	平成26年度文化庁芸術祭参加作品 ザ・ドキュメント 芸の魂	文楽は300年以上の歴史を持つ大阪の伝統芸能である。七代目竹本住大夫は、1989年に人間国宝に認定され、文楽初の文化勲章を受章している。2012年脳梗塞で入院したが、リハビリを続けて復帰。だが「音で語れなくなった」と2014年に引退記者会見を開いた。引退後も弟子の稽古に忙しい住大夫に、はなし家の桂南光がインタビューする。(竹本住大夫・竹本文字久大夫・竹本光子・桂南光)	59
	●	DD2017-002	B-3	目撃者f 戦地からの手紙 ～つながった愛のメッセージ～	福岡市に住む伊藤博文さんは、祖父半次さんが戦地から送り続けた絵手紙を受け継いだ。400通もの手紙には、当時の戦地の様子や暮らしぶり、人々との関わり合いなどが描かれていた。絵手紙を紹介する本を出版することにした博文さんは、祖父の足跡をたどるため、半次さんの最期の地となった沖縄を訪問する。激戦のさなか妻に送った手紙から、家族への思い、平和の尊さを読み解く。(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:小林信恵	26
		DD2017-003	B-3	目撃者f つながり 想い ～麻友と笑顔のたすきりレー～	2012年12月21日、福岡大学の女子陸上部員の多くが生活していた寮が全焼するという火事があり、当時1年生だった川端麻友さんが犠牲となった。麻友さんは中距離の選手として活躍を期待されていた。麻友さんの同級生5人も心に大きな傷を負うが、「麻友のために」を合言葉に、卒業まで頑張ることを誓い合う。あの火事から3年。4年生になった5人は12月の島原学生駅伝で、学生生活最後のたすきをつなぐことになった。(字幕・手話付き 選択可能)手話表現者:佐沢静枝	26